

研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

研究データ利活用についての ライトニングトーク

発表者一覧（敬称略）

- 1 「Mahaloボタンの紹介とDIASでの利用事例」 北本 朝展（国立情報学研究所）
- 2 「JPCOAR研究データ作業部会活動報告」 結城 憲司（九州大学）
- 3 「NIES/CGERにおける研究データ基盤整備」 白井 知子（国立環境研究所）
- 4 「NIES/CGERにおける研究データ管理システム（GERDaMS）」 福田 陽子（国立環境研究所）
- 5 「国立国会図書館が提供するオープンソース&データセット」 徳原 直子（国立国会図書館）
- 6 「ジャパンサーチのAPIを用いたオープンデータの活用」 中村 覚（東京大学）
- 7 「人文系研究データのためのTEI (Text Encoding Initiative) ガイドライン」 永崎 研宣（人文情報学研究所）
- 8 「大学における研究データポリシー策定の推進」 船守 美穂（国立情報学研究所）
- 9 「人文学・社会科学総合データカタログ（JDCat）と分野横断データの利活用」 池内 有為（文教大学）

Mahalo Buttonの紹介とDIASでの 利用事例

国立情報学研究所

北本 朝展 (Asanobu KITAMOTO)

共同研究者

中原 陽子 (NII)、**清水 敏之** (九大)、**島井 博行**
(京大)

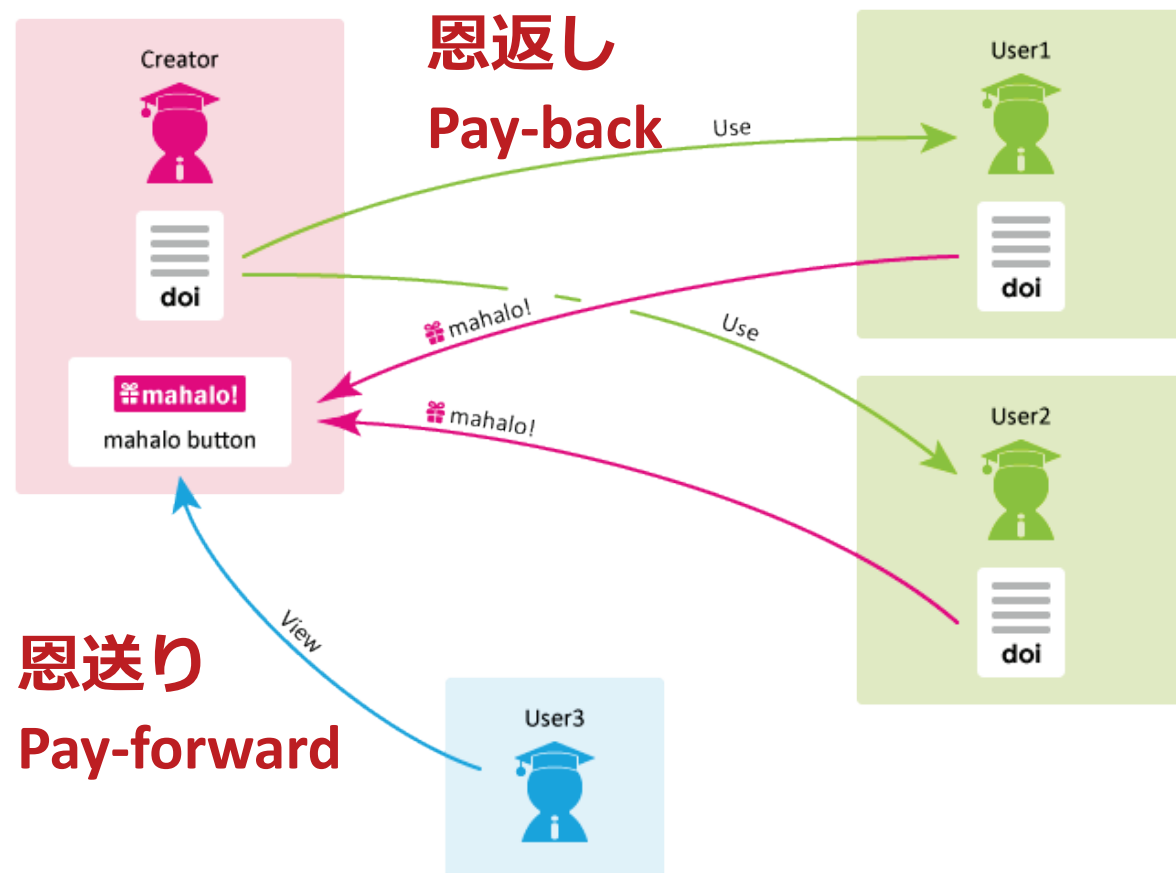
<https://dias.ex.nii.ac.jp/>





mahalo project

'Mahalo' is a Hawaiian word for 'thank you,' but it has a broader meaning such as admiration, praise, esteem, regards and respects (Mary Kawena Pukui et al., Hawaiian Dictionary, 1986).



1. **恩返し** : データ利用者からデータ作成者に向けて、ボタンを押して書くことで、研究成果と共に感謝を伝える。
2. **恩送り** : ボタンに集まった研究成果を読むことで、潜在的利用者は新たな着想を得てデータの利用を進める。

Mahalo Button

<https://mahalo.ex.nii.ac.jp/>



1. **データ作成者（公開者）**：Mahalo Buttonサイトにログインし、ボタンの一意な識別子（UUID）とSnippetを生成する。これをデータセットのランディングページに貼り付け、ボタンを設置する。
2. **データ利用者**：自らの研究成果のDOIをボタンに登録することで、データの利用事例を自発的に報告する。
3. **潜在的データ利用者**：ボタンに集まった研究成果（利用事例）を読むことで、自分自身の利用につながる着想を生み出す = Mahalo Buttonの情報ハブ化

DIASへのMahalo Buttonの導入

<http://search.diasjp.net/>



データ俯瞰・検索システム
Dataset Search and Discovery

English

ホーム 使い方 このサイトについて

第3次 全球土壌水分プロジェクト 気象外力（実験1）



このデータセットの引用文

金 炯俊. (2017). 第3次 全球土壌水分プロジェクト 気象外力（実験1） [Data set]. データ統合・解析システム(DIAS). <https://doi.org/10.20783/DIAS.501>

引用フォーマット:

このデータセットを引用した論文

 mahalo! 48

Give Mahalo

< 1 2 >

Given DOI:
[10.1029/2020WR028787](https://doi.org/10.1029/2020WR028787)

Title:
G-RUN ENSEMBLE: A Multi-Forcing Observation-Based Global Runoff Reanalysis

Thank You Message:
A paper using the DIAS dataset has been published. We thank the authors of the paper and the data providers.

Name:
DIAS Office dias-office@diasjp.net

Created:
2021-11-09T09:17:39+09:00Z

2021/11/22

研究データ利活用協議会(RDUF)公開シンポジウム

4

DIASへのMahalo Buttonの段階的導入

<https://diasjp.net/infomation/20211116/>

1. DIASが過去に収集したデータセット利用報告を整理し、Mahalo Buttonに登録する。
2. DIASが公開済みのデータセットDOIをGoogle Scholar等で検索し、Mahalo Buttonに登録する。
3. 2021年11月16日の公開日に、データセットの利用事例がボタンに集まった状態を作り出した。
4. 今後：データ利用者が自らの研究成果をMahalo Buttonに自発的に登録するよう、普及啓発活動を行う。

ご利用のすすめ

<https://dias.ex.nii.ac.jp/mahalo/>

1. **Mahalo ButtonはDIAS専用のシステムではありません。**
GoogleのFirebase認証により、誰でも使えます。
2. 多数のボタンを一括して登録・更新する機能など、
データリポジトリ向けの運用機能も用意しています。
3. Mahaloメッセージを非可視にするなど、**集まった情報の品質を管理する機能**も用意しています。
4. **DOI以外の識別子システム（PubMed, arXiv等）**への対応は今後の課題です。
5. **ぜひ具体的なご要望をお寄せください！**

JPCOAR（ジェイピーコア）とは

J P C O A R
オープンアクセスリポジトリ推進協会



オープンアクセスリポジトリ推進協会

Japan Consortium for Open Access Repository : JPCOAR

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)は、国内の大学・研究機関が力を結集し、
オープンアクセスの発展に向けた課題の解決に共同で取り組んでいく拠点です。

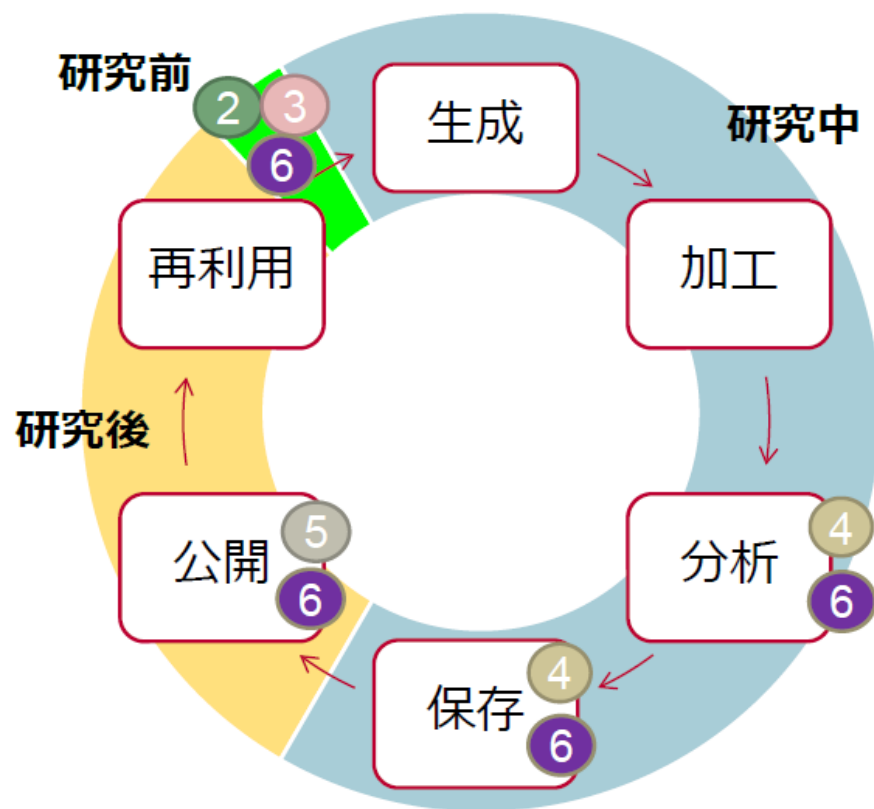
J P C O A R
オープンアクセスリポジトリ推進協会

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR : Japan Consortium for Open Access Repository）

- 国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所（NII）の間の連携・協力協定に基づき、2016年7月に設立したコミュニティ
※前身となる組織は機関リポジトリ推進委員会で、2017年3月に解散したデジタルリポジトリ連合（DRF）の役割も引き継ぐ
- 目的：リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資すること
- JAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）をNIIと共同運営
- 参加機関：678機関（2021年11月1日現在）
- 運営委員会と4つの作業部会（**研究データ作業部会**、コンテンツ流通促進作業部会、コミュニティ強化・支援作業部会、人材育成作業部会）

JPCOAR研究データ作業部会の取組（1-1） 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」の改訂

【研究データのライフサイクル】



【本教材の構成】

- 1章 序論
- ② 2章 サービス設計
- ③ 3章 研究前の支援
- ④ 4章 研究中の支援
- ⑤ 5章 研究後の支援
- ⑥ 6章 日常的な支援

旧教材への意見や要望を受けて、
新たな教材を作成。

【新規教材作成のポイント】

- ・ターゲットの明確化

→研究支援職員

- ・より実践的・具体的な内容に

→研究前・研究中・研究後という研究の流れに基づく内容
・アクセス性の向上、機関管理機能→開発予定の学認LMSによる提供

- ・モニター館からのフィードバックによる改善

- ・ The UK Data Service, Research data lifecycle
<http://www.data-archive.ac.uk/create-manage/life-cycle>
- ・ Mariette van Selm, RDM Support - basic training course for information specialists
<http://dx.doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313> を元に加工

JPCOAR研究データ作業部会の取組（1-2） 教材「研究者のための研究データマネジメント」の公開

研究前

1. 外部資金の獲得
2. 申請書類（DMP）の作成
3. 所属機関のインフラ活用

研究中

1. 研究データの保存
2. 研究データの検索・発見・収集
3. データ分析
4. 加工・分析中のデータ管理
5. DMPの更新

研究後

1. データの引用
2. データの公開方針の決定
3. リポジトリへのデータ登録
4. データ論文を通じたデータ公開

研究者向けの教材が必要という意見を受け、新たな教材を作成

【新規教材作成のポイント】

- ・ターゲットは研究者に設定
- ・必要な部分のみ受講できるように、テーマに分けて教材を分割
- ・学認LMSへの対応を想定

第1版 2020年10月30日公開

JPCOAR研究データ作業部会の取組（2） 「データベースレスキューマニュアル ver1.0」の公開

- 失われゆく過去の研究データ
 - 「科研費の助成を受けて作成されたデータベースの約半数が適切に管理されていない」（2016年及び2019年調査による）
 - 管理者がいなくなると、維持管理が困難
- リポジトリ等がその受け皿になれないか？



- 2017年度から各機関でレスキューの取組や事例収集（琉球大、東大、京大、北大、岡山大、物質・材料研究機構等）
- 「データベースレスキューマニュアル ver.1.0」（2021.4.22公開）
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000001>

JPCOAR研究データ作業部会の取組（3） 「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」

- AXIES-RDM部会と連携し、RDM事例形成プロジェクトの一環として実施

調査期間：2020年11月27日～12月28日実施

質問数：全46問、有効回答機関：352機関

集計結果は「2020年度RDM事例形成プロジェクト中間報告書」に掲載

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000003>

- Q10.機関全体での研究データ管理体制構築に向けた取組の実施状況
何らかの動きがある24%、必要性は認識しているが動きはない58%
- Q13.研究データ管理体制のステークホルダーになり得る部署、または既に関与している部署（複数回答可）
研究推進・協力系218件、図書館150件、情報系センター111件、知財系71件

※今年度、NISTEPと共同分析を実施中

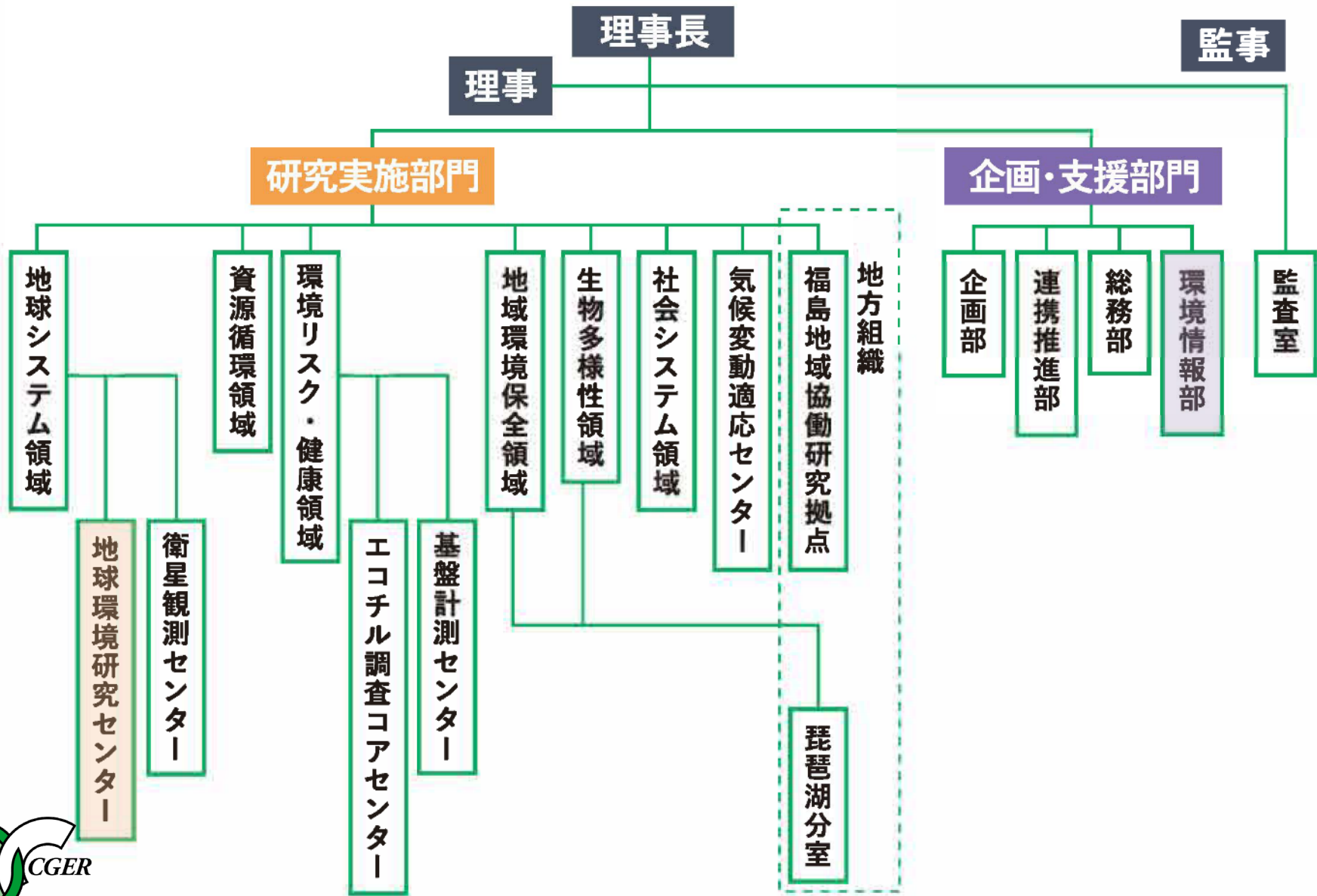
JPCOAR研究データ作業部会の取組（4） 「AXIES-JPCOAR研究データ連絡会による連携事業」

- 1) AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS（第2回：リポートセッション）
日時：2021年11月30日(火) 9:00-12:30 ※先着20名
<https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/event/20211130ws?authuser=0>
- 2) AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS（第1回） ※終了
日時：2021年9月28日(火) 9:00-12:00
- 3) AXIES「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン」（2021年7月1日公開）への協力 <https://rdm.axies.jp/sig/70/>
- 4) AXIES-JPCOAR研究データワークショップ ※終了
日時：2021年2月19日(金) 9:30-12:00

NIES/CGERにおける研究データ基盤整備

国立環境研究所-地球環境研究領域
白井知子

国立環境研究所：組織図



地球環境研究センター (CGER)

Center for Global Environmental Research

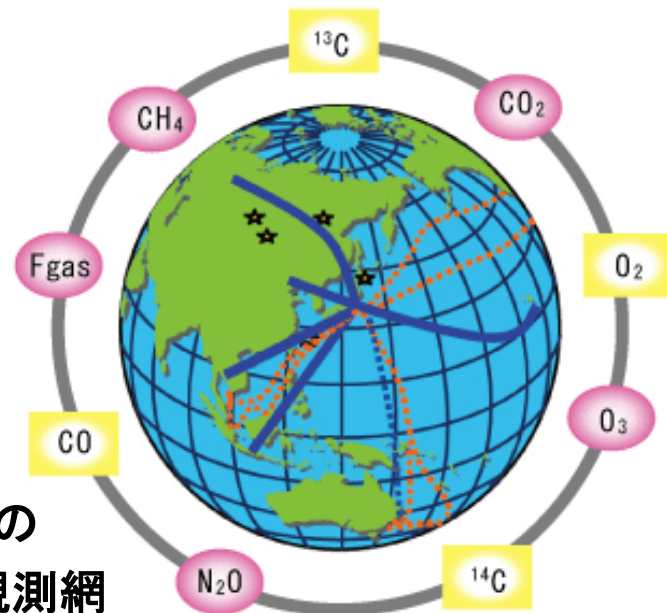


人類が地球環境に及ぼす影響を科学的に解明し、的確な環境保全対策を講ずるための基礎づくりを行うことを目的に、わが国の地球環境研究に関わる中核的機関として1990年に発足。

地球温暖化研究の中心的組織として研究を推進するとともに、地球環境モニタリング・データベース構築、スーパーコンピュータの運用・データ解析環境の整備などの研究支援、学際的・省際的な地球環境研究の総合化など地球環境研究を基盤的に支える事業を実施。



日本最大規模の
温室効果ガスの観測網



GED:地球環境データベース

30年のあゆみ

1990-

どこにどんなデータがあるの？



各国機関に手紙で問い合わせ



利用申請後、メディア送付



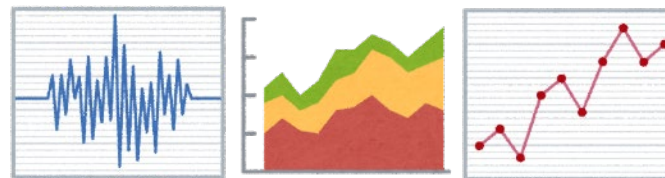
情報源情報データベース作成

2000-

インターネット普及



データの所在探しは楽に！



CGERデータも蓄積されてきた



CGERオリジナルデータ発信

GED:地球環境データベース



NIES/CGERの基盤データベースとして
2014年5月より公開

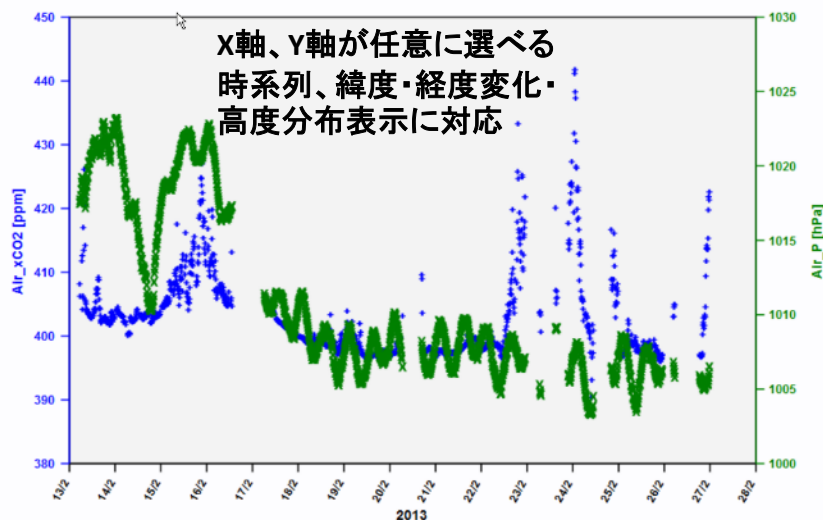
F_{indable} A_{ccessible} I_{nteroperable} R_{eusable} なデータ提供を目指す



特色

- 提供データのフォーマットを統一 (AMES)
- クイックプロット機能 (自動グラフ表示)
- リアルタイムデータ (速報値) の充実
- 複数のデータ検索手法
- 解析支援ツール (流跡線解析など)

クイックプロット



<http://db.cger.nies.go.jp/portal/>

地球環境データベース

国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター

ホーム データベース 速報値 解析支援 関連データ データ検索 English

概要

大気・海洋モニタリング

大気・海洋モニタリング

陸域モニタリング

大気・海洋モニタリング

数値データをダウンロードするにはユーザ登録が必要です。

地上ステーションモニタリング

波照間ステーション (クイックプロット、数値データ (ユーザ登録))

波照間島は、八重山諸島の一部であり八重山郡竹富町に属しています。竹富町役場がある石垣島から南西約50km、西表島の南約22kmに浮かぶ小島で、島から南へ約66km行くと北回線が存在し、有人島では日本最南端の島です。面積は約12.8km²。観測所は島の東端にあり、珊瑚礁が発達した海岸から約100m内陸に所在しています。観測所の地上高約36mの位置で観測大気を採取しています。

【観測期間】 1993/11 - 2010/12/31 (CO₂)

【観測地点】 波照間 (緯度: 24.0608度, 経度: 123.8093度)

【観測項目】 CO₂, CH₄, N₂O, オゾン, ハロカーボン類, NOx, SO₂, PM2.5, 気象データ等

【ウェブサイト】 <http://db.cger.nies.go.jp/gem/ground/index.html>

落石岬ステーション (クイックプロット、数値データ (ユーザ登録))

落石岬は、北海道東部の根室半島の付け根に位置し、周囲を断崖絶壁に囲まれた小さな岬です。岬の内陸中央には落石岬原生地、天然記念物のサカイツツジの南限自生地があり、岬の大半は自然保護地域に指定されています。観測所は、岬の南端に位置し、海拔50mの崖上に所在しています。観測所の地上高約50mの位置から観測大気を採取しています。

【観測期間】 1995/08 - 2010/12/31

【観測地点】 落石岬 (緯度: 43.1602度, 経度: 145.4973度)

【観測項目】 CO₂, CH₄, オゾン, ハロカーボン類, NOx, SO₂, PM2.5, 気象データ等

【ウェブサイト】 <http://db.cger.nies.go.jp/gem/ground/index.html>

シベリアの温室効果ガスモニタリング

航空機による温室効果ガスモニタリング (クイックプロット、数値データ (ユーザ登録))

地球環境研究センターでは、大陸内部における温室効果ガスの長期的な変動をとらえるために、1993年からシベリア上空で航空機を使って大気のサンプリングを開始しました。またBerezorechkaにおいては、航空機を使って二酸化炭素濃度の鉛直分布の現場測定を2001年から行っています。

【観測期間】 1993 -

【観測地点】 Surgut, Novosibirsk, Yakutsk, Berezorechka (CO₂の現場測定のみ)

【観測項目】 CO₂, CH₄, N₂O, CO, H₂, SF₆

タワーによる温室効果ガスモニタリング (クイックプロット、数値データ (ユーザ登録))

地球環境研究センターでは、2001年から、大陸内部における温室効果ガスの長期的な変動をとらえるために、シベリアにタワーネットワークを構築し、温室効果ガスの連続観測を行っています。

【観測期間】 2001/10/15 - 2012/03/29

【観測地点】 Azovo, Berezorechka, Demyanskoe, Igrim, Karasevov, Noyabrsk, Savvushka, Vaganovo, Yakutsk

【観測項目】 CO₂, CH₄, 気温、湿度、風向、風速、日射量、気圧、降水量等

定期貨物船を利用した太平洋温室効果ガスモニタリング

地球環境研究センターでは、太平洋海域での大気中温室効果ガスの挙動や、大気海洋間の二酸化炭素交換量を把握するために観測機器を船体に搭載し1995年から観測を継続しています。現在は、日本と北米間、日本-オーストラリア間の観測を実施しており、また日本と東南アジア間で大気観測を行っています。

Skaugran (クイックプロット、数値データ (ユーザ登録))

1995年3月から1999年10月まで協力したカナダSeaboard International Shipping Co.所属の材木運搬船M/S Skaugran号は、バンクーバー〜日本間を6〜7週間間隔で航行しました。本船には異なる仕様の海洋CO₂測定機器を2台設置し、研究者らが乗船して観測を行いました。

【観測期間】 1995/03/29 - 1999/10/18

【観測地点】 北太平洋 (リットル (ロシア・北米))

DOI登録作業の流れ

システム化したい→RDMS開発(2018～)



CGER データ提供者 ⇔ DB室担当者

環境情報部 (HP兼DOI担当者)

1. メタデータの作成

データ提供者にメタデータ
入力シートを記入してもらう

メタデータ入力シート

2. データ公開ページの作成

データ公開ページ

3. メタデータページ・DOI 登録用XMLファイル作成

入力シートを元に、手作業で作成

メタデータページ

DOI登録用XMLファイル

4. ランディングページ作成

メタデータページを元に、CMSで
ランディングページを作成

ランディングページ

5. DOI登録作業

JaLCを介してDataCiteでDOI
を登録



CGERの研究データ基盤

メタデータ・データの管理・公開・検索・利活用支援

2021年度 運用開始・更新予定

GERDaMS 研究データ管理システム

◆ 研究データ管理

- メタデータ作成
- ライセンス付与
- DOI付与
- バージョン管理



RDMSとGEDの管理用
データベース共通化

データベース



GED 地球環境データベース

◆ データベース

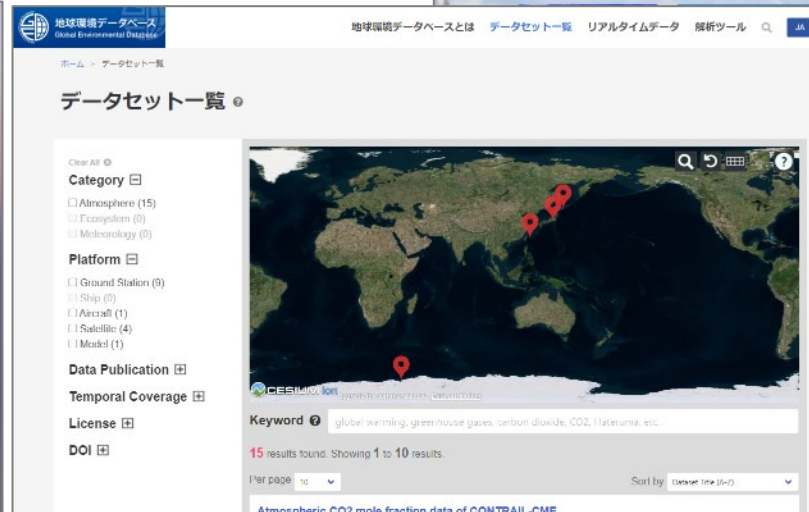
- データ公開
- データ検索
- 解析支援



RDMSから登録したメタデータを
GEDのデータ検索に利用

RDMSに登録されたデータは、
スムーズにGEDから公開される

研究チームが協働しながら
データのライフサイクルを
主体的に回せる仕組み作り



NIES/CGERにおける 研究データ管理システム (GERDaMS)

福田陽子、白井知子

国立環境研究所（NIES）地球システム領域（ESD）地球環境研究センター（CGER）





研究データ管理システム (GERDaMS)

2

■ GERDaMS

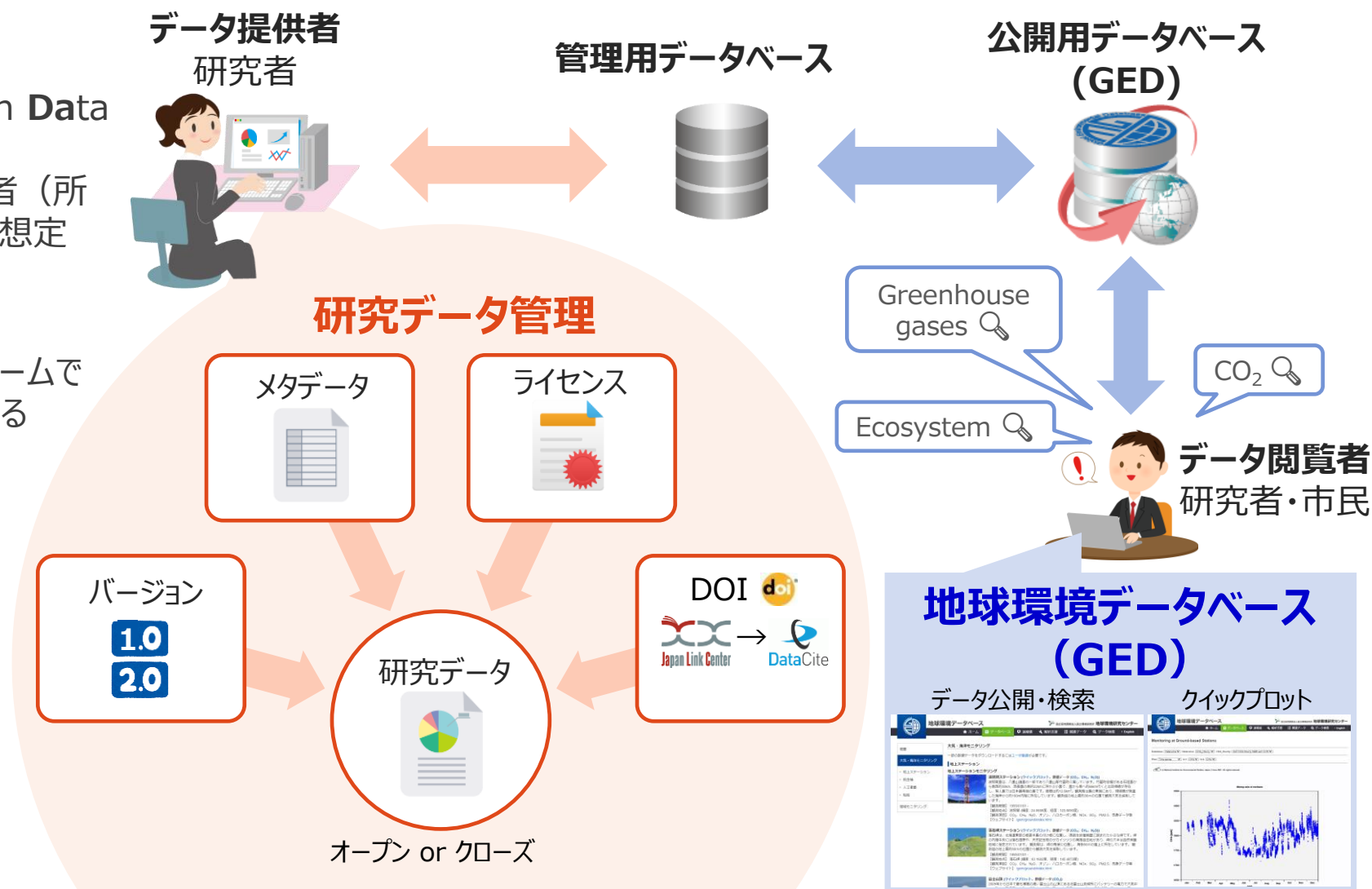
- **Global Environmental Research Data Management System**
- 主にCGERの研究者とその共同研究者（所外の研究者も含む）が利用することを想定

■ GERDaMSを利用することで、

- データの公開・非公開にかかわらず、チームでデータやメタデータを管理することができる
- GEDや他のリポジトリからスムーズにデータを公開することができる

■ 主な機能

- メタデータ作成
- バージョン管理
- ライセンス・利用規約の作成
- DOI付与





データセット登録の流れ

3

GERDaMS トップ > New dataset

New dataset

Draft Preparing

データセット管理 **メタデータ** 研究データ 補足データ メンバー

データセット管理

1. 研究データ・メタデータの公開/非公開選択状況

研究データとメタデータについて公開の希望を選択してください。これを選択しないと、2の作業を開始することができません。

研究データ非公開 メタデータ非公開	研究データ非公開 メタデータ公開
研究データ公開 メタデータ公開 (DOI付与なし)	研究データ公開 メタデータ公開 (DOI付与あり)

2. メタデータの作成状況、研究データのアップロード状況

メタデータの作成や研究データのアップロードを行い、作業を完了してください。メタデータの作成と研究データのアップロードは、どちらからでも行えます。

メタデータの作成 作業開始 作業中 完了

研究データのアップロード 作業開始 作業中 完了

3. データセットの申請状況

メタデータの作成や研究データのアップロードを完了し、データセットの公開申請を行うには『公開申請』ボタンをクリックしてください。

データセット申請状況 公開申請 申請済

1. 研究データ・メタデータの公開／非公開を指定

- A) 研究データ非公開、メタデータ非公開：データセットメンバーのみで管理・共有したい！
- B) 研究データ非公開、メタデータ公開：メタデータのみ公開したい！
- C) 研究データ公開、メタデータ公開（DOI付与なし）：データを公開してみたい！
- D) 研究データ公開、メタデータ公開（DOI付与あり）：データにDOIを付与して公開したい！

2. メタデータ作成、研究データのアップロード

3. データセットの公開申請

4. データセットの公開作業（RDMS担当者、環境情報部）

登録内容の確認、DOI登録作業
(システムでメタデータページ、データ公開ページ、登録用XMLファイルを出力)

データセットの公開



メタデータ作成

4

- メタデータは観測データ用、モデルデータ用の2種類を用意
- 登録済みデータセットのメタデータファイルを入力フォームにインポートすることで、メタデータの作成を簡単に行える

基本情報

- ・ タイトル
- ・ 概要
- ・ 貢献者
- ・ ファイル形式
- ・ バージョン
- ・ データセットの種類（観測 or モデル）
- ・ データセットの主なカテゴリ
- ・ データの言語
- ・ データ提供機関
- ・ 問い合わせ先
- ・ 参考情報

データセットのタイトル

タイトル（英語）

【例】 Continuous Observational Data of Atmospheric CO2 Mixing Ratios on Hateruma Island

タイトル（日本語）

【例】 波照間ステーションにおける大気 CO2 濃度の連続観測データセット

データセットの概要

概要（英語）

【例】 The present data set is a set of continuous observational data of background CO2 mixing ratios in the vicinity of 20°N in the Western Pacific Ocean facing East Asia, measured on Hateruma Island, Okinawa Prefecture, Japan...

概要（日本語）

【例】 本データセットは、日本国沖縄県の波照間島において観測される、東アジアに面する西部太平洋域の北緯20付近のバックグラウンドCO2の連続観測データセットである...

詳細情報

共通項目

- ・ データの時間範囲
- ・ 時間・空間分解能
- ・ 算出方法
- ・ 更新履歴
- ・ キーワード
- ・ 自由記述項目

観測データの場合

- ・ 観測パラメータ
- ・ 観測実施期間
- ・ 観測局・プラットフォーム情報
- ・ 測定範囲
- ・ 観測精度
- ・ 計測方法

モデルデータの場合

- ・ 主なパラメータ
- ・ ドメイン

観測パラメータ

メインパラメータ（英語）

【例】 CO2 mixing ratios

メインパラメータ（日本語）

【例】 CO2濃度

クイックプロット対象

☐ はい ☐ いいえ

パラメータ省略名 【例】 CO2

+ サブパラメータを追加

観測実施期間と実施状況

観測開始年月日

YYYY/MM/DD

実施状況

主なパラメータ

主なパラメータ（英語）

【例】 CO2 emissions from fossil fuel combustion, cement production and gas flaring

主なパラメータ（日本語）

【例】 化石燃料燃焼による二酸化炭素排出量

データの時間範囲

開始年月日

YYYY/MM/DD

最終年月日

YYYY/MM/DD

ドメイン

ドメイン

☐ 観測 ☐ モデル



ライセンス・DOI付与

5

ライセンス・利用規約の作成

- 利用規約を独自に作成するか、CC0、CCライセンスから選択

適用する利用規約・ライセンス

適用する利用規約・ライセンス

- ☐ カスタムライセンス【推奨】
- ☐ CC0 1.0 (権利放棄)
- ☐ CC BY 4.0 (表示)
- ☐ CC BY-SA 4.0 (表示 - 継承)
- ☐ CC BY-ND 4.0 (表示 - 改変禁止)
- ☐ CC BY-NC 4.0 (表示 - 非営利)
- ☐ CC BY-NC-SA 4.0 (表示 - 非営利 - 継承)
- ☐ CC BY-NC-ND 4.0 (表示 - 非営利 - 改変禁止)
- ☐ その他

- 独自に利用規約を作成する場合でも、以下の項目について例文を用意。

- ・ 許諾の範囲
- ・ 配布の条件
- ・ 最新版の利用
- ・ 出典の明記
- ・ 引用の書式
- ・ 利用報告
- ・ 問題報告
- ・ 無保証及び免責
- ・ 助言などの提供、など

出典の明記

出典の明記 (英語)

When publishing any Products based on the present data set, it must be clearly stated that the present data set was used. However, the Author may request the User to delete the citation from the Product. In that case, the User shall comply with the request within reasonable extent. ✓

出典の明記 (日本語)

利用者は、派生物に、その派生物が本データセットを利用して二次的に作成されたものであることを明記しなければならない。ただし作成者は、利用者に対し、派生物から出典の記載を削除するように要求することができる。その場合、利用者は、合理的に実施可能な範囲で、派生物から出典の記載を削除しなければならない。 ✓

引用の書式

引用の書式 (英語)

When this data set is referred to in publications, it should be cited in the following format.
et al. (2021), Ver.x.x *1, DOI:10.17595/20210707.001. (Reference date *2: YYYY/MM/DD)
*1 The version number is indicated in the name of each data file.
*2 As the reference date, please indicate the date you downloaded ✓

引用の書式 (日本語)

本データセットを引用する場合は、以下のように表記しなければならない。
ら (2021), Ver.x.x *1, DOI: 10.17595/20210707.001. (参照*2: YYYY/MM/DD) ✓

DOI付与

- DOI付与の希望、希望のデータ公開日、DOIサフィックスを指定できる

DOIの付与

DOI

- ☐ 付与しない
- ☒ 付与する

希望のデータ公開日

2021/07/07

付与するDOI

10.17595/ 20210707.001 ✓

次のステップでは入力したメタデータを確認します。

戻る 次へ



データ・補足資料の管理

6

- データと補足資料あわせて100GB/データセットまで管理できる

ファイルごとに、公開/非公開の設定が可能

公開する場合は、ダウンロード制限*をかけることも可能
*ダウンロード時にユーザー登録が必要

研究データファイル

Filename		Publication	Restriction	Size	Uploaded
HAT.CO2.Hourly.1993.ver1.1.txt		Public	Non-Restricted	381.2 KB	2021/06/04 14:28:32
HAT.CO2.Hourly.1994.ver1.1.txt		Public	Non-Restricted	381.2 KB	2021/06/04 14:28:32
test.txt		Private	-	12 bytes	2021/06/04 14:28:32
		Partially Public			

補足資料ファイル

Filename		Publication	Restriction	Size	Uploaded
Readme.txt		Public	Non-Restricted	0 KB	2021/06/04 14:28:32
		All Public			

サムネイル画像

Filename		Thumbnail	Size	Uploaded
Hateruma_station.png		 サムネイル1	49.8 KB	2021/06/04 14:28:32
QuickPlot_Hateruma_CO2.png		 サムネイル2	88.1 KB	2021/06/04 14:28:32

- サムネイル画像はGEDのデータセット一覧に利用
 - ・ データセットを象徴する画像
 - ・ データの内容が分かるような画像

その他の機能、今後の予定



- データセットの共同管理機能
 - ・ 共同管理したい相手をデータセットメンバーに招待
 - ・ データセットメンバーの作業履歴の確認
 - ・ データ公開までの作業状況が一目でわかる
- 今年度の予定
 - ・ GERDaMSの運用開始
 - ・ GEDリニューアル

GERDaMSとGEDが連動した研究データ基盤を整備することで、研究データの管理・公開・検索を実現

CGERの研究データ基盤

メタデータ・データの管理・公開・検索

RDMS

開発中

- ◆ 研究データ管理
 - ・ メタデータ作成
 - ・ ライセンス付与
 - ・ DOI付与
 - ・ バージョン管理



RDMSとGEDの管理用
データベース共通化

データベース



GED

更新準備中

- ◆ データベース
 - ・ データ公開
 - ・ データ検索



RDMSに登録されたデータは、
スムーズにGEDから公開される
(更新の反映も迅速)

RDMSから登録したメタデータ
をGEDのデータ検索に利用



オープンサイエンス対応を支援

RDMS開発スケジュール



国立国会図書館が提供する オープンソース&データセット ～次世代システム開発研究室から～



国立国会図書館 電子情報部主任司書兼

電子情報企画課次世代システム開発研究室長 徳原 直子



この資料（ロゴを除く）は、特記のない限りクリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンスの下に提供されています。

NDLラボ

<https://lab.ndl.go.jp/>

- 次世代システム開発研究室（次世代室）が運営
- 新しい図書館サービスの実証実験の場
- 2013年5月に公開、2020年3月にリニューアル



NDLラボとは

NDLラボの概要と研究成果のご紹介

NDLラボの目的や、NDLラボで研究開発を行っている技術に関する文献をご紹介します。



体験する

実験サービスのご紹介

次世代の図書館システムの開発のための要素技術を適用した実験サービスを公開しています。



活用する

データセット・プログラムのご紹介

国立国会図書館が提供する各種データの利活用の促進を目指して、技術情報を公開しています。



参加する

イベントのご紹介

今後のイベント開催予定と、過去のイベントの様子を公開しています。



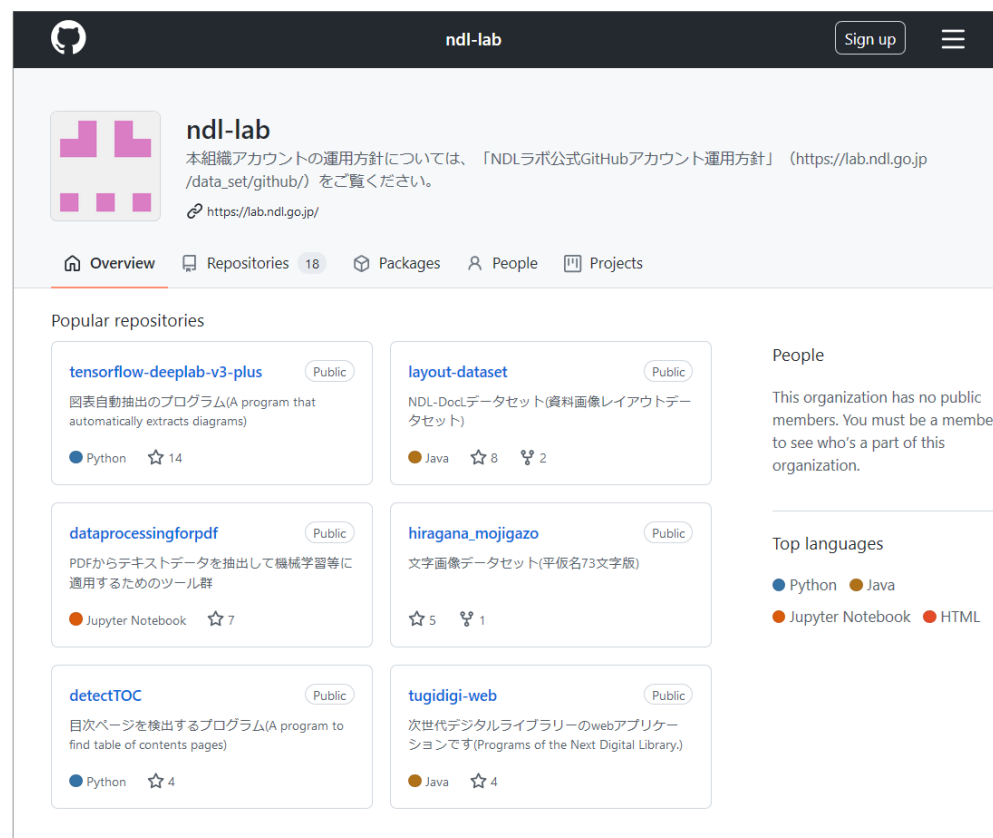
次世代室のプログラム・データセットの公開

<https://github.com/ndl-lab>

- GitHubで公開

GitHub : 世界で最もよく使われているオープンデータ・プログラムの公開・共有サイト

- 2019年8月 アカウント開設
- 次世代室が調査研究中の技術情報を公開
- **プログラムはCC BY、著作権保護期間満了のデジタル化資料から作成したデータはパブリックドメインマーク（PDM）で提供**
- 外部の優秀なエンジニアとの技術的な検討の場の創出へ



New

OCR用1行データセット (ocr-ndloneline)

<https://github.com/ndl-lab/ocr-ndloneline>

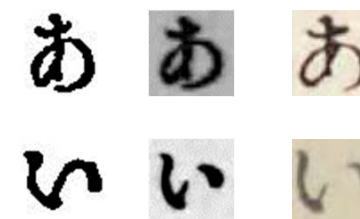
- デジタル化資料から1行単位で切り出した画像と、対応するテキストデータのデータセット
- OCR等の学習用データセットとして整備
- 目次コマ（画像）と人手で校正した目次情報（テキスト）を利用
- 縦書きと横書きを分けて配置
- PDMで公開

「アスファルトブロック」舗道上に「アスファルト」層を造ること
大岡越前守と石川近江守の抜擢

その他の文字画像データセット

いずれもPDM

- 文字画像データセット（頻出漢字300文字分）
https://github.com/ndl-lab/kanji_mojigazo
 - デジタル化資料から頻出漢字の文字画像を切り出したもの。計146,157画像
- 文字画像データセット（ひらがな73文字版）
https://github.com/ndl-lab/hiragana_mojigazo
 - 上記のひらがなバージョン。計8万画像



New

ラベル付画像データセット (NDL-ImageLabel)

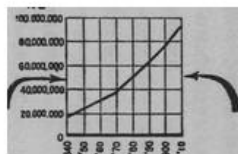
<https://github.com/ndl-lab/imagetagdataset>

- デジタル化資料から自動抽出した図版（6,405画像）にラベルを付与したデータセット
- ラベルには、地図、グラフ、イラスト、写真のほか、蔵書印も
- 著作権保護期間が満了したデジタル化資料を用いているので、PDMで公開

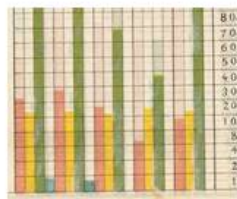
ラベル名	画像数
graphic_map	581画像
graphic_graph	371画像
graphic_illustcolor	170画像
graphic_illust	2,695画像
picture_landmark	728画像
picture_outdoor	748画像
picture_object	401画像
picture_indoor	232画像
stamp	479画像



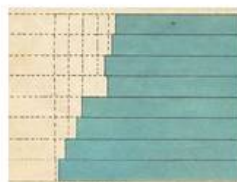
graphic_graphの画像例



graphic_graphの画像例



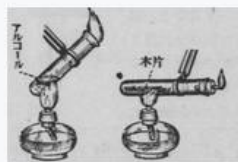
graphic_graphの画像例



graphic_graphの画像例



graphic_illustrationの画像例



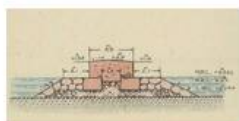
graphic_illustrationの画像例



graphic_illustrationの画像例



graphic_illustrationの画像例



graphic_illustrationcolorの画像例



graphic_illustrationcolorの画像例



graphic_illustrationcolorの画像例



graphic_illustrationcolorの画像例



picture_landmarkの画像例



picture_landmarkの画像例



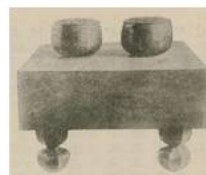
picture_landmarkの画像例



picture_landmarkの画像例



picture_objectの画像例



picture_objectの画像例



picture_objectの画像例



picture_objectの画像例



picture_outdoorの画像例



picture_outdoorの画像例



picture_outdoorの画像例



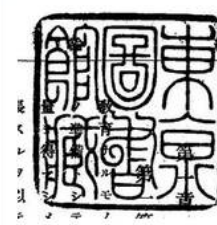
picture_outdoorの画像例



stampの画像例



stampの画像例



stampの画像例



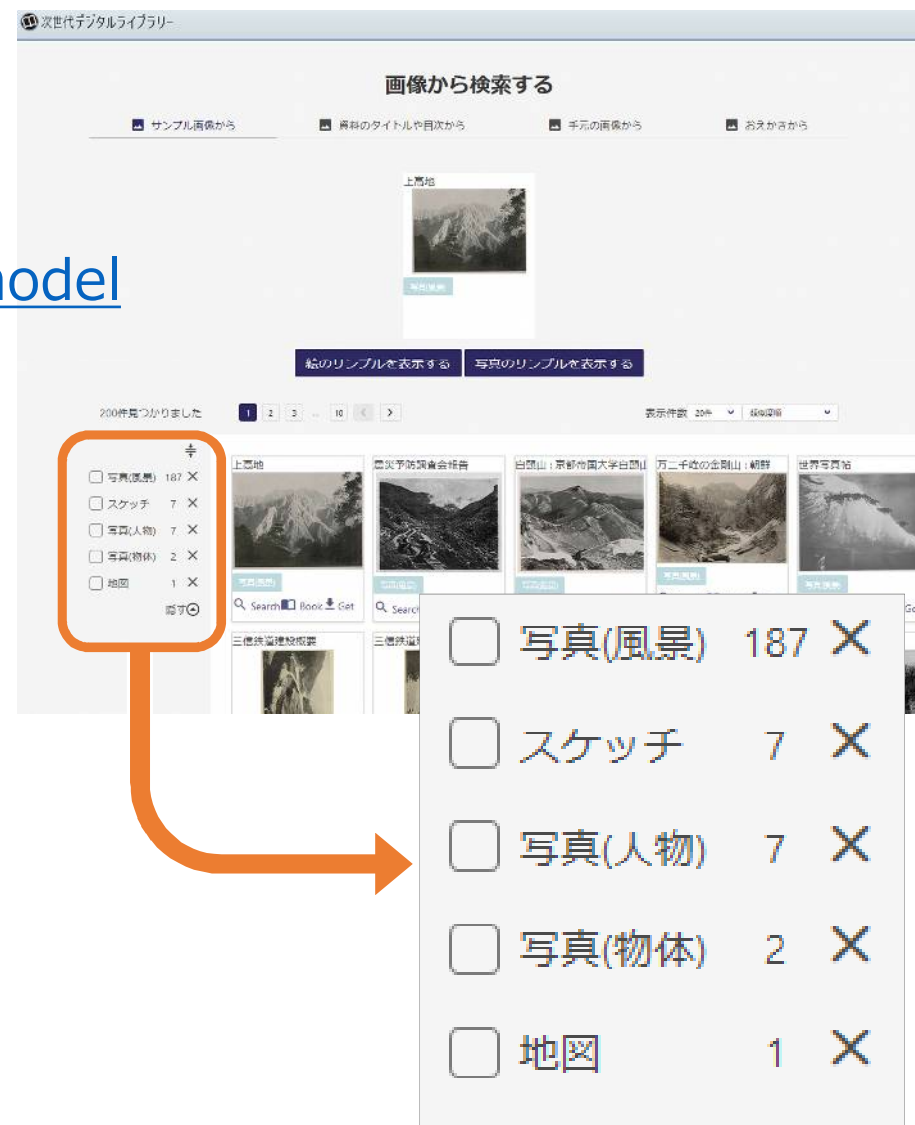
stampの画像例

New

図版ラベルの推定モデル

<https://github.com/ndl-lab/tagestimatemodel>

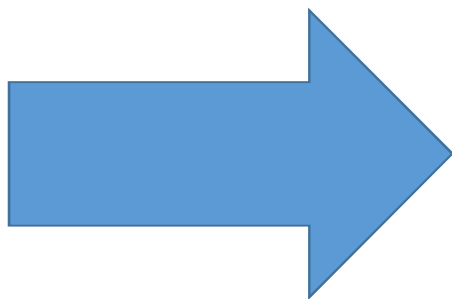
- NDL-ImageLabelデータセット を利用して、資料画像に付与するラベルを推定する機械学習モデル
- 次世代デジタルライブラリー（右）でデジタル化資料中にある図版の検索ができるが、膨大な量（約2,300万点）に及ぶため検索性と利便性が課題になっていた
 - 図版を特性ごとに整理して検索できるようになった
 - 図版を事前に自動分類することで、当館外のオープンな大規模画像データ資源を利用した機械学習モデルとの連携が容易になった



(例) NDLデジタル化資料と大規模データ資源との連携

PDM資料中の屋外建造物写真と 観光名所写真のデータセットを結び付けることが可能に

picture_landmark (屋外建造物)
と推定された図版 (エッフェル塔)



Google Landmarks Dataset V2



『海外旅行日誌：西から西へ』（1931年出版）
(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1028417/120>)

(<https://storage.googleapis.com/gld-v2/web/index.html>)

NDCの推定モデル (ndc_predictor)

https://github.com/ndl-lab/ndc_predictor

- 書誌情報から日本十進分類法（NDC9版）を推測する fastText の学習済みモデル
- 精度

モデル	クラス	精度 (R@1)
NDC1 桁	10	0.86
NDC2 桁	100	0.819
NDC3 桁	947	0.753

NDC Predictor

機械学習による日本十進分類の推測アプリ

テキストエリアに貼り付けられた書誌情報から日本十進分類(NDC9版)を推測します。学習にはタイトル、出版者、著者の情報を利用していますが、他のテキストが混ざっていても推測は可能です。

例：

- ドリトル先生のガブガブの本 新訳：シリーズ番外編 ヒュー・ロフティング 作 河合祥一郎 訳 patty 絵
- 草木花実写真図鑑 2巻 川原恵寛 前川重兵衛
- 「舞姫」の主人公をバンカラとアフリカ人がボコボコにする最高の小説の世界が明治に存在したので20万字くらいかけて紹介する本 山下泰平 著 柏書房
- NDC Predictorは、国立国会図書館の書誌データを用いた機械学習により、任意の書誌情報/テキストから、その日本十進分類の分類を自動推定するアプリケーションです

書誌情報を貼り付けてください

🔍 推測

推定モデルと精度

API

今後の公開予定

(令和3年度の取組)

- 「国立国会図書館デジタルコレクション」掲載のほぼ全てのデジタル化資料（約2億2300万画像コマ）のテキスト化
- オープンソースとして公開可能なOCR処理プログラムの研究開発



国立国会図書館デジタルコレクション

1. OCR処理プログラム

機械学習可能なOCR処理プログラムを CC BY で提供

2. 大量のテキストデータ

著作権保護期間が満了したデジタル化資料のOCRテキストデータ

ジャパンサーチのAPIを用いた オープンデータの活用事例の紹介

東京大学 中村寛

以下、日本電子出版協会(JEPA)セミナー「ジャパンサーチの概要と運用」のスライドを引用しています。

<https://jpsearch.go.jp/archive#1lt8i2g1l05ug2>

ジャパンサーチとは

●デジタルアーカイブの利活用基盤（プラットフォーム）

さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携し、
我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータ*
をまとめて検索・閲覧・活用できる

● 政府の「知的財産推進計画」等に掲げられている 国の取組

運用主体：デジタルアーカイブジャパン推進委員会・
実務者検討委員会
（事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局）
システムの運用担当：国立国会図書館

● 2020年8月25日に正式版を公開

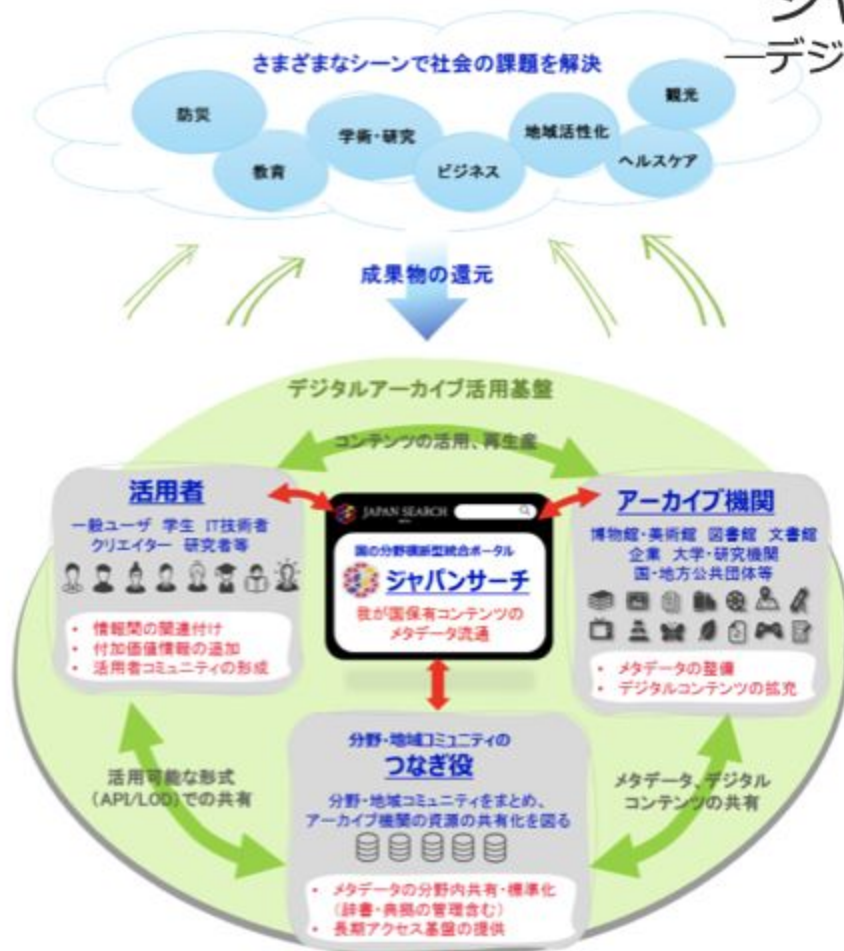
*メタデータとは：

コンテンツの内容や所在等について記述したデータ。図書館の書誌データ、博物館・美術館の収蔵の目録データなど。



ジャパンサーチ正式版トップ画面
<https://jpsearch.go.jp/>

ジャパンサーチの目的 —デジタルアーカイブ社会の実現—



ジャパンサーチを通して、
多様な**デジタルコンテンツ**が、
教育、学術研究、観光、地域活性化、
防災、ヘルスケア、ビジネスなど
様々な分野で利活用されることを想定

デジタルアーカイブ社会の実現

「3か年総括報告書 我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」
(令和2年8月19日 デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会)
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/pdf/r0208_3kanen_houkoku_honbun.pdf

デジタルアーカイブの共有と活用のために

API (SPARQLエンドポイント)

活かす

- 集約したメタデータを、利活用のための分野横断の標準形式「**ジャパンサーチ利活用スキーマ (JPS-RDF)**」に変換し、利活用データとしてAPI (SPARQLエンドポイント) で提供

「開発者向け情報」 <https://jpsearch.go.jp/static/developer/>

- ジャパンサーチAPIの解説

SPARQL API (<https://jpsearch.go.jp/api/sparql-explain/>)

EasySPARQL API(<https://jpsearch.go.jp/api/sparql-explain/#sec4>)

- 利活用スキーマ概説 (<https://jpsearch.go.jp/api/introduction/>)
- チュートリアル (「NDLラボ」内)
(https://lab.ndl.go.jp/data_set/tutorial/app_tutorial/)

API活用事例

- ジャパンサーチの検索結果のページで、利活用データを用いて、同じ作者/同年代/同じ場所の情報を持つ資料など、関連するアイテムを自動表示
- Europeana、Gallica等との横断検索も可能



自動ギャラリーの試作

自動ギャラリーページへ

人物検索

jps:agential等
を利用



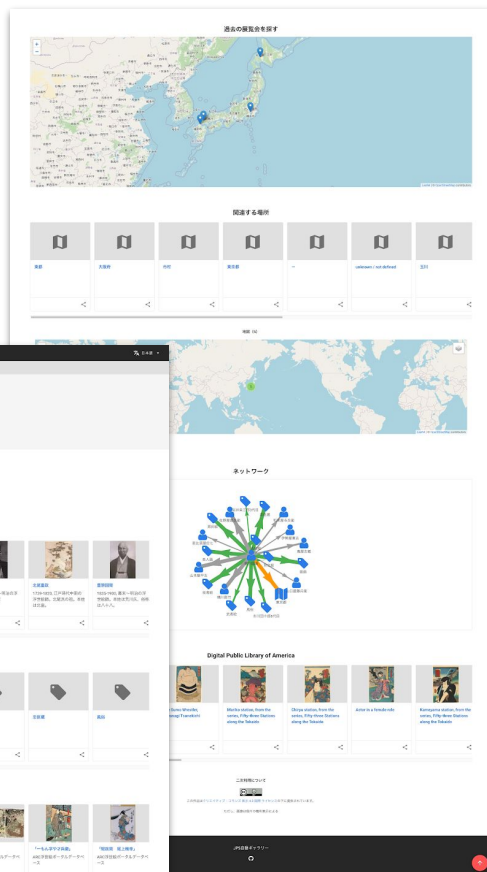
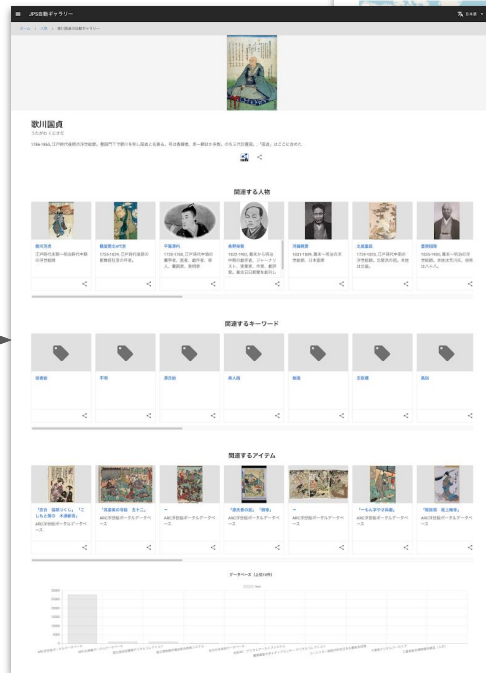
地図検索

schema:spatialを
利用



キーワード検索

jps:aboutを利用



キーとなる要素(人物、地名、キーワード)の概要説明

JPS自動ギャラリー

ホーム > 人物 > 歌川国貞



歌川国貞

うたがわくにさだ

1786-1865, 江戸時代後期の浮世絵師。豊国門下で歌川を称し国貞と名乗る。号は香蝶楼、英一軒ほか多数。のち三代目豊国。;「国貞」はここに含めた。




関連する人物



歌川万虎
江戸時代末期～明治時代中期の浮世絵師





鷗屋南北4代目
1755-1829, 江戸時代後期の歌舞伎狂言の作者。





平賀源内
1728-1780, 江戸時代中期の蘭学者、医者、戯作者、俳人、蘭画家、発明家





赤野源四郎
1832-1902, 幕末から明治・中期の戯作者。ジャーナリスト、実業家、作家、劇評家。東京日日新聞を創刊し





河鍋曉斎
1831-1889, 幕末～明治の浮世絵師、日本画家





北尾重政
1739-1820, 江戸時代中期の浮世絵師。北尾清の祖。本姓は北屋。





豊原国貞
1835-1900, 幕末～明治の浮世絵師。本姓は荒川氏。俗称は八十八。



関連する人物

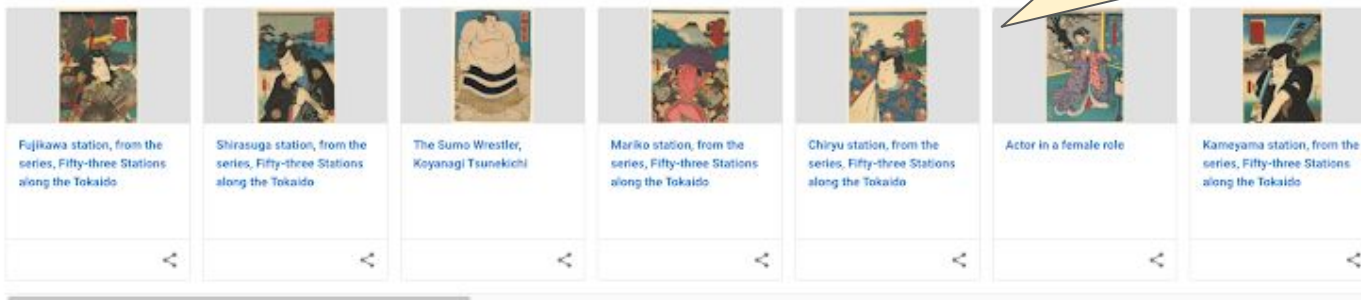
7

関連する要素(人物、地名、キーワード)のネットワーク図

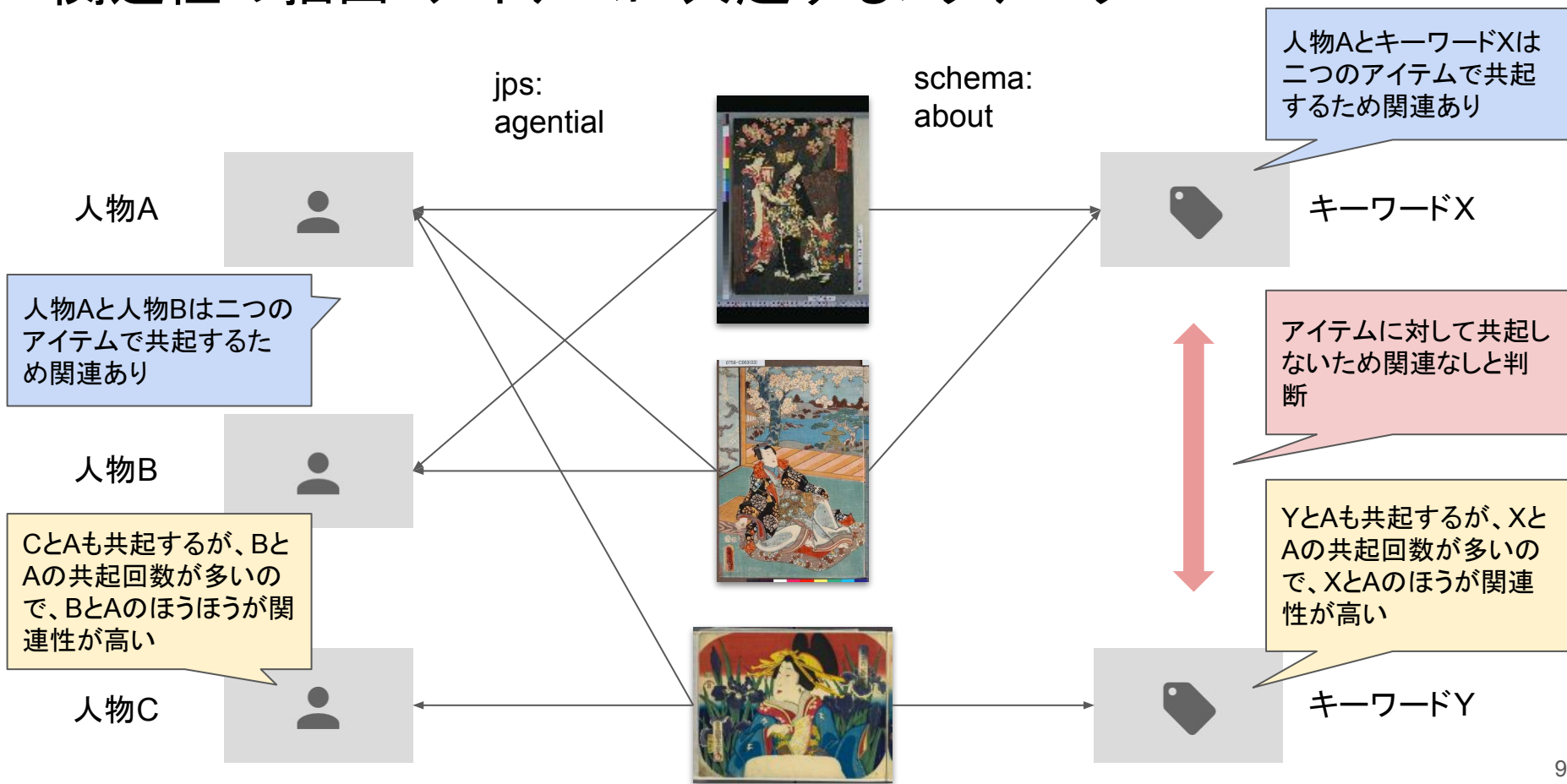


※キーが「人物」の場合のみ
Europeana, DPLAで提供されている同一作成者のアイテム

Digital Public Library of America



関連性の抽出: アイテムに共起するメタデータ



その他の活用例: IIF APIの利用

Japan Search Apps

パズル Powered by [Puzzles!](#) Powered by [IIF](#)

鯨 実行



芸術資料. 第2期 第3冊
国立国会図書館 National Diet Library, JAPAN

Start



(鯨と要石)
国立国会図書館 National Diet Library, JAPAN

Start



(地震鯨の取調べ)
国立国会図書館 National Diet Library, JAPAN

Start



まとめ

- ジャパンサーチ

- 日本の幅広い分野のデジタルアーカイブと連携し、多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォーム
- 集約されたメタデータは、利活用のための分野横断の標準形式「ジャパンサーチ利活用スキーマ」に変換され、APIを通じて利用可能

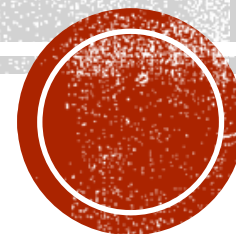
- APIを用いたオープンデータの活用例・アプリケーション開発例の紹介

- RDFを用いた自動ギャラリー、IIIFを用いたパズル

ご静聴ありがとうございました。

人文系研究データのための TEI (TEXT ENCODING INITIATIVE) ガイドライン

一般財団法人人文情報学研究所 永崎研宣



人文学研究データの共有における課題

- デジタルアーカイブ⇒資料から始まる
 - 図書館・博物館等、比較的安定した運用体制
 - 資料単位でのメタデータとしては比較的扱いやすい
 - 一定のデータ共有はされているものの、研究の観点により様々な着眼点がある
 - ⇒研究データとしては詳細メタデータやアノテーションが必要
 - ⇒「研究データ」としての扱いの難しさ
- 研究データ⇒研究から始まる
 - 研究目的で作られるため、観点や使用目的は明確
 - 研究者が作成・公開・運用する
 - 持続可能性における困難さ
 - メタデータ・語彙の統制の難しさ



TEIガイドラインがもたらす可能性

- XMLベースの「ガイドライン」により、拡張可能性を持たせたメタデータ・語彙の統制が可能
 - 人文学者のコミュニティが作成しているため、研究ニーズに即した統制が行われている
 - データの段階では作成者のニーズに基づいてメタデータを付与してからデータベースの側で取捨選択可能
- 日本語向けTEIガイドライン
 - https://github.com/TEI-EAJ/jp_guidelines/wiki
- 人文学・社会科学におけるデータ共有のための手引き
 - <https://www.jsps.go.jp/j-di/guide.html>
- TEIガイドラインとは
 - 『歴史情報学の教科書』第8章 歴史データのさまざまな応用 -Text Encoding Initiative の現在-
 - <https://bungaku-report.com/blog/2019/03/chapter-8-text-encoding-initiative.html>



大学における 研究データポリシー 策定の推進

RDUF公開シンポジウム ライトニングトーク

2021年11月22日

国立情報学研究所 船守美穂

RDMに関わるガイドライン関係

□ 研究開発法人

- 内閣府「国立研究開発法人におけるデータポリシー策定のためのガイドライン」(2018)

□ 大学

- 研究不正防止に関連して、「機関の責任」と「研究データ10年保存ルール」を定めたガイドラインのみ
 - 文部科学大臣決定「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(2014)
 - 日本学術会議「(回答)科学研究における健全性の向上について」(2015)
- 「研究資料等の保存に関する指針」等を大学には策定

大学において
研究データ利活用の
視点を含む規定が
ない！



データポリシーの項目(案)

1. 機関におけるデータポリシー策定の目的
2. 管理する研究データの定義、制限事項
3. 研究データの保存・管理・運用・セキュリティ
4. 研究データに対するメタデータ、識別子の付与、フォーマット
5. 研究データの帰属、知的財産の取り扱い
6. 研究データの公開、非公開および猶予期間ならびに引用

大学における研究データポリシーの位置づけ

...大学と国立研究開発法人の違い

大学

- 機関の使命
 - 「教育」が主たる使命
- 研究の位置づけ
 - 「研究者個人に付与された研究費」が中心
- 社会への還元の必要性
 - 研究開発法人ほど明確ではない。
 - しかし、公的資金を得ているため、説明責任がある。

国立研究開発法人

- 機関の使命
 - 「研究開発」が主たる使命
- 研究の位置づけ
 - 機関の使命として推進
- 社会への還元の必要性
 - 国費を得て研究を推進しているため、研究成果の社会への還元は必須。



大学における研究データポリシーの必然性は、結構、曖昧……？

「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン」(AXIES)

- 大学において研究データポリシーを策定するにあたっての考え方や手順をとりまとめ。

目次

1. 利用にあたって
2. ポリシー策定するにあたって
3. ポリシーの種類
4. ポリシーの項目と検討の視点
5. ポリシー策定のプロセス

➤ 大学ICT推進協議会 (AXIES)

大学における
研究データポリシー
策定のための
ガイドライン

AXIES 大学ICT推進協議会

2021年7月1日

海外大学の研究データポリシーの分析 ...参照した海外大学のポリシー

□ 主要国から、①リーディング大学と、②研究データ管理について先駆的な大学を中心に、数大学ずつ抽出

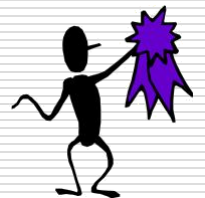
➤ 国横断的な網羅性はあるけれども、平均像を表現している訳ではない

➤ URDPガイドライン「参考資料1」に提示

➤ 英(3)、独(2)、蘭(3)、米(4)、加(2)、豪(3)、香港(1)、シンガポール(2)

- 赤字: 多くの大学にてポリシーあり
- グレー: ポリシーはあるが、アクセス不可のものあり

ベースを作った
京都大学に
Special Thanks!



海外大学の研究データポリシーの分析

...研究データポリシーの2つの流れ

① オープンサイエンスの流れに基づくポリシー

- オープンサイエンスの流れから求められる機関内の研究データ管理体制を定める。
- 対応国: 欧州諸国、豪州、アジア諸国

② 大学のコンプライアンスへの対応に基づくポリシー

- 機関の文書管理等への対応の必要性により、研究データの帰属/保管/移管について定める。
- 対応国: 米国



③ ①②の折衷案

- オープンサイエンスの流れに基づきつつ、研究データ帰属の考え方も整理する
- 対応大学: シドニー大学、クイーンズランド大学、南洋工科大学

先行大学の研究データポリシー

□ 京都大学

- 研究データ管理・公開ポリシー
- 研究者情報整備委員会 承認(2020.3)

□ 名古屋大学

- 学術データポリシー
- 教育研究評議会 承認(2020.10)

□ 東京工業大学

- 研究データポリシー
- 問合せ先:研究推進部情報図書館課電子図書館グループ

いずれも
オープンサイエンス型
だよ！



第6期科学技術・イノベーション基本計画

...(2) 新たな研究システムの構築

(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)

【数値目標】

- 機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、**2025 年までに、データポリシーの策定率が100%になる。**
- 公募型の研究資金の新規公募分において、**2023 年度までに、データマネジメントプラン(DMP)及びこれと連動したメタデータの付与を行う仕組みの導入率が 100%になる。**

■ 関連文書

統合イノベーション戦略推進会議（令和 3 年 4 月 27 日）

「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaiopen/sanko1.pdf>

AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS(第一回)(2021.9.28開催)

第二回WS
11/30
開催予定

AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会

home · event ▼

大学において研究データポリシー策定義務化?! さてどうする?

AXIES-JPCOAR研究データポリシー策定WS(第一回)

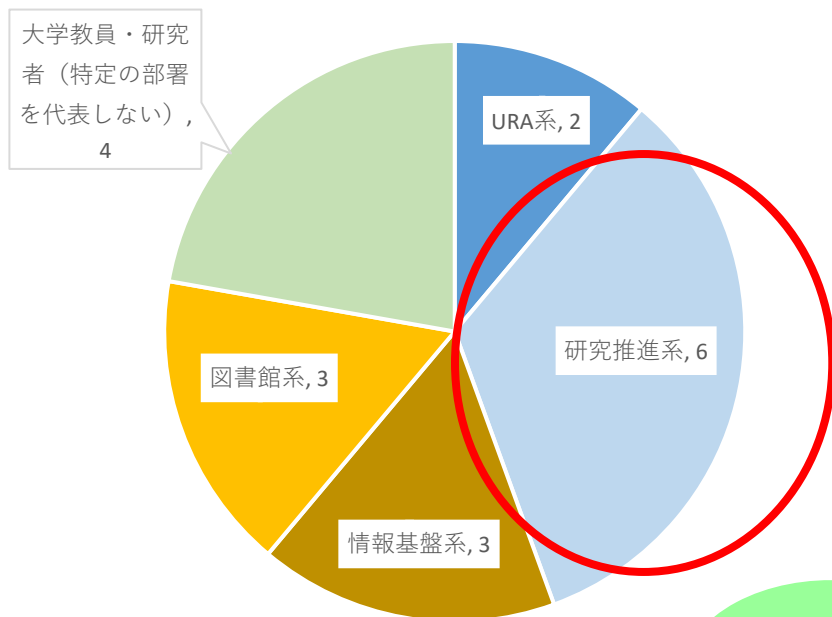
開催趣旨

第6期科学技術・イノベーション基本計画において、「機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、2025年までに、データポリシーの策定率が100%になる」という目標が立てられました。機関リポジトリを有する大学は600以上あるので、国内ほぼ全ての大学がポリシーを策定しなくてはならないということになります。多くの大学が慌てているのではないのでしょうか? AXIES「大学において研究データポリシー策定のためのガイドライン」を取りまとめたメンバーにとっても国の建てた目標は驚きで、急に拡大したガイドラインへの需要に驚いています。

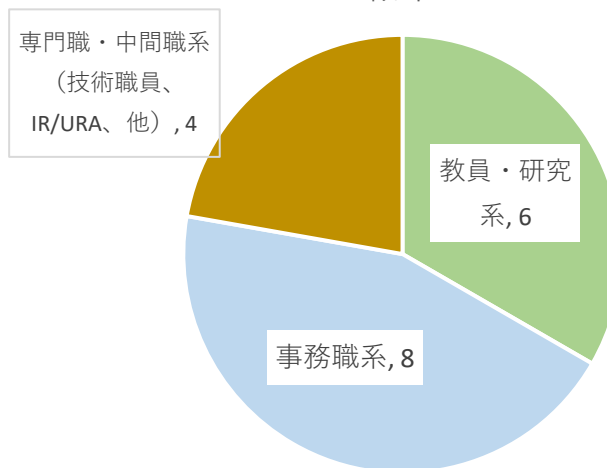
「大学ICT推進協議会(AXIES) 研究データマネジメント部会」および「オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR) 研究データ作業部会」は世界におけるオープンサイエンスの潮流を受け、ここ数年、大学における研究データ管理について検討を進めてきました。それぞれ情報基盤センター等および大学図書館のコミュニティを中心に検討を進めてきていますが、大学において研究データ管理を進める上での両者の連携の必要性を念頭に、昨年2020年7月に「AXIES-JPCOAR研究データ連絡会」を立ち上げています。今回の研究データポリシー策定WSは、この連絡会の主催としますが、AXIESとJPCOARのコミュニティのみならず、研究推進系やIR/URA系、産学連携/知財系、企画/総務系などからの参加も歓迎します。このWSを通じて、大学において研究データ管理を推進するために必要な大学および部署横断的な連携が進むことを期待しています。

AXIES-JPCOAR研究データポリシー策 定WS(第一回)...参加者属性

所属部署属性



職系



これまでRDMに関わらなかった層が参加！



研究データ管理において 大学で必要とされる体制（案）

どうせデータ管理
するなら、大学の
研究力強化に
つなげたい！

Multi Stakeholder
Approach

執行部

全学ポリシー、大学戦略

研究公正
担当

研究
担当

図書館
担当

情報
担当



学長

業界団体、
ネットワーク

全学サービス

研究推進部

研究事務
研究公正

研究支援部門
(URA Station)

研究評価
研究支援

大学図書館

データ保全
データ公開

情報基盤
センター

情報基盤
ITポリシー

データ
保護

キュレー
ション

分野別
学会

ポリシー策定
専門的助言

部局事務：連絡・調整

研究現場



RA、院生、技術職員、ラボ管理者、実験補助者 等：データ生成・管理

シンプルでも URDPがあることの意味



□ URDPがあることに意味がある

- 大学がRDMについて対応することの意思表示
- 研究データについて、大学に責任があることの証

□ 学内教職員や関係部署が共通の認識を持ち、組織的な対応が可能となる拠り所

- 関係部署が自身の業務をポリシーにより位置づけ
- データキュレータ等は研究支援業務を評価の対象にすることが可能に

データガバナンス



企業のマーケティングにおいて
データの整合性は
戦略的に優位に立つ上で
最重要課題！

- データ管理に対して、組織として、明確な理念のもとに体制を構築し、具体的に実施するようにすること。
 - 機関におけるデータ管理の重要性が認識されるようになり、近年使われるようになった概念。
- 大学におけるデータガバナンスはもっぱら「**機関データ(人事, 財務, 教務データ等)**」を対象とする。
- 部署間のデータの整合性の担保や、エビデンスに基づく意思決定、データセキュリティ、コンプライアンスなどを目的する。
- 担当部署：IR室、情報基盤センター等

データガバナンス ...C-Officer＋四役

□ データオーナー

- データ所有者。大学の機関データについては学長あるいは大学当局。

□ データトラスティー

- 大学の役員や管理職により担われ、自身の担当領域のデータの管理について最高責任を負う。

□ データスチュワード

- 担当領域の部課長や職員で、機関データが適切に生成、管理、取り扱われることについて責任を有す。

□ データカストディアン

- データの保存管理や保護について責任を有し、情報管理やIT部門により担われることが多い。

□ Chief Data Officer (CDO)

- 機関におけるデータガバナンスの実施を総括する。大学ではIR室を兼ねる場合がある。

まとめ

...「研究データの帰属」の考え方の整理の必要性

- 「研究データ」と「機関データ」の機関管理の考え方は、現場では独立して発展しているが、今後、総合的に体系立てられるものと想定される。
- 「機関データ」は、大学職員が大学運営のために収集・生成しており、機関管理の考え方が自然に導入可能である。
- これに対して「研究データ」は、研究者が自身の研究活動のために収集・生成しており、今後、その機関管理の考え方は、「研究データの帰属」の考え方とともに、整理されていく必要がある。

人文学・社会科学総合データカタログ (JDCat) と 分野横断データの利活用



人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター研究員 (PO)
池内有為 (文教大学文学部・専任講師)

講演概要

1. JDCat*の特徴とデータ活用の展望

2. デモ

- ① 簡易検索
- ② 詳細検索
- ③ ファセット検索
- ④ 英語検索
- ⑤ データへのアクセス



<https://jdcats.jp/>

*JDCat= Japan Data Catalog for the Humanities and Social Sciences

1. JDCatの特徴：横断検索

一橋大学
経済研究所

慶應義塾大学
経済学部附属経済研究所
パネルデータ
設計・解析センター

大阪商業大学
JGSS研究センター

東京大学
社会科学研究所附属
社会調査・データ
アーカイブ研究センター

東京大学
史料編纂所



1. JDCatの特徴：メタデータ

■JDCatメタデータスキーマ

✓合計31の要素

■統制語彙 (CV)

① トピック

- CESSDA Topic Classification
- 日本統計年鑑目次
- 日本十進分類法

② 対象地域

③ 日本統計年鑑外地（旧地名）

④ データタイプ

⑤ アクセス権

⑥ データの言語

⑦ 観察単位

⑧ サンプルング方法

⑨ 調査方法

⑩ 研究助成機関

No.	JDCat element	エレメント名	記入レベル (社会科学)	記入レベル (人文学)
1	Title	タイトル	◎	◎
2	Study ID	整理番号	◎	◎
3	Author	作成者	◎	◎
4	Distributor	配布者	◎	◎
5	URI	URI	◎	◎
6	Topic	トピック	○	○
7	Summary	概要	○	○
8	Time Period(s)	対象時期	○	○
9	Geographic Coverage	対象地域	○	○
10	Data Type	データタイプ	○	○
11	Access	アクセス権	○	○
12	License	権利情報	○	○
13	DOI	DOI	○	○
14	Data Language	データの言語	○	○
15	Version	バージョン情報	○	
16	Unit of Analysis	観察単位	○	
17	Universe / Population	母集団	△	
18	Sampling Procedure	サンプリング方法	△	
19	Collection method	調査方法	△	
20	Funding Agency	研究助成機関		
21	Grant ID	研究費番号		
22	Alternative title	その他のタイトル		
23	Series	シリーズ		
24	Date of collection	調査日		
25	Sampling Rate	回収率		
26	Bibliographic Citation	引用上の注意		
27	Datafile URI	データファイルURI		
28	Related Studies	関連情報		
29	Related Publications	関連文献		
30	Publisher	編集者		
31	Provider	所蔵者・寄託者		

◎：必須 ○：強く推奨 △：推奨 空欄：任意

1. JDCatの特徴：統制語彙 (CV)

① JDCatメタデータスキーマ（画面下部）



② 統制語彙(CV)

- ✓各CVをExcel形式で公開
- ✓日本語・英語

統制語彙

1. トピック_CESSDA Topic Classification (xlsxファイル)
2. トピック_日本統計年鑑目次 (xlsxファイル)
3. トピック_日本十進分類法 (xlsxファイル)
4. 対象地域 (xlsxファイル)
5. 日本統計年鑑外地（旧地名）(xlsxファイル)
6. データタイプ (xlsxファイル)
7. アクセス権 (xlsxファイル)
8. データの言語 (xlsxファイル)
9. 観察単位 (xlsxファイル)
10. サンプルング方法 (xlsxファイル)
11. 調査方法 (xlsxファイル)
12. 研究助成機関 (xlsxファイル)

1. JDCatの特徴：統制語彙 (CV)

例：日本統計年鑑目次

日本統計年鑑目次 (Japan Statistical Yearbook Classification)

	用語 (日本語)		Code descriptive term (en)
0	主要指標	0	Key Statistics
I	地理・人口	I.	Geography and Population
1	国土・気象	1	Land and Climate
1.1	国土	1.1	Land
1.2	気象	1.2	Climate
2	人口・世帯	2	Population and Households
2.1	人口	2.1	Population
2.2	世帯	2.2	Households
2.3	人口動態	2.3	Vital Statistics
2.4	人口移動	2.4	Migration
II	マクロ経済活動	II.	Macroeconomic Activities
3	国民経済計算	3	National Accounts
4	通貨・資金循環	4	Currency and Flow of Funds
4.1	通貨	4.1	Currency
4.2	資金循環	4.2	Flow of Funds

1. JDCatの特徴：英語検索

- タイトル・概要・トピック等を英語で表示
- 全拠点機関のデータを英語の統制語彙で検索
例："Compulsory and pre-school education"

Girls' High Schools (FY 1925-1934) : Statistical Yearbook of Imperial Japan 56 (1937) Table 231

Japan. Ministry of Education, Office of the Governor-General of Korea, Office of the Governor-General of Taiwan, Japan. Sakhalin Agency, Japan. Kwantung Bureau, PERIOD: FY 1925-1934. SOURCE: [Annual Report of the Ministry of Education, Statistical Abstract of Education; Statistics by government offices, overseas territories of Japan]. NOTE FOR USE: The Statistical Yearbook contains the figures at the time of publication, and does not reflect any subsequent updates or revisions to the figures.

一橋大学：経済研究所

Korean Youth Panel Survey (Elementary school, KYPS-E), wave1(2004)-wave5(2008)

KYPS. The fieldwork was entrusted to Millward Brown., This research was initiated in 2004 as a survey project of (Korea) National Youth Policy Institute. In 2004, the first survey was done for the Grade 4 in nationwide, who were extracted by multi-stage stratified random sampling. The follow-up survey has been executed every year afterwards to 2008. This study explores various aspects and problems in respect of the life situations among the youth, such as their hopes and fears for future course, stress caused by excessive competition for entrance examination, class collapse, relinquish their study, deviation, insufficient leisure. The factors relevant to these problems can be analyzed by adopting the longitudinal research design. This project is completed five surveys (Wave1-Wave5) by 2008. The data deposited this time comes from the surveys 2004, 2005, 2006, 2007 and 2008 (Wave1-Wave5). The first investigation in 2004 is a national probability survey 2844(2949 were selected as a sample) Korean students Grade 4, and their parents. The follow-up survey is in 2005, 2006, 2007 and 2008. In the following, the under-mentioned name is used. survey in 2004: The 1st survey, Wave1 (W1) survey in 2005: The 1st follow-up survey, Wave2 (W2) survey in 2006: The 2nd follow-up survey, Wave3 (W3) survey in 2007: The 3rd follow-up survey, Wave4 (W4) survey in 2008: The 4th follow-up survey, Wave5 (W5)

東京大学：社研

Japanese General Social Surveys (JGSS) Cumulative Data 2000-2003

Tanioka, Ichiro, Iwai, Noriko, Nitta, Michio, Sato, Hiroki, The Japanese General Social Surveys (JGSS) Project is a Japanese version of the General Social Survey (GSS) project closely replicating the original GSS of the National Opinion Research Center at the University of Chicago. It provides data for analyses of Japanese society, attitudes, and behaviors, which makes possible international comparisons. This cumulative file includes four data files, JGSS-2000, JGSS-2001, JGSS-2002, and JGSS-2003. JGSS-2000-2003 dataset is published on the following data archives. Japan: JGSSDDS (<https://jgssdds.repo.nii.ac.jp>) USA: ICPSR (<https://www.icpsr.umich.edu>) Germany: GESIS (<https://www.gesis.org>) Please refer to the respective websites for data application procedure.

大阪商業大学：JGSS

1. JDCatの特徴：ファセット検索

■プルダウンメニューから予め用意されたキーワードを選択して検索

■ファセットの種類

- ① アクセス権
- ② データの言語
- ③ 配布者
- ④ 対象地域
- ⑤ トピック

アクセス権

データの言語

配布者

対象地域

トピック

公社債・株式(35) x

疾病、障害、健康状態(36)

政治行動と政治的態度(34)

資金(34)

通信事業(34)

文化的活動と参加(33)

その他(32)

保険(32)

情報通信(32)

畜産業、獣医学(32)

検索結果

■農工銀行債券(昭和1-10年): 大日本帝国統計年鑑 56 (昭和10年)

大蔵省銀行局, 【対象期間】昭和1年-昭和10年 【注】(単位1000円) 更新・修正等があっても反映していない。

■農工銀行債券(大正14年-昭和9年): 日本帝国統計年鑑 55 (昭和9年)

大蔵省銀行局, 【対象期間】大正14-昭和9年 【注】(単位1000円) 新・修正等があっても反映していない。

■社債現在高(昭和9年末): 日本帝国統計年鑑 55 (昭和11年)

大蔵省理財局, 【対象期間】昭和5-9年末 種別(昭和9年末) 【注】(単位1000円) 後、原資料で数値の更新・修正等があっても反映していない。

■社債現在高(昭和6年末-昭和10年末): 大日本帝国統計年鑑 56 (昭和10年)

大蔵省理財局, 【対象期間】昭和6年末-昭和10年末 【注】(単位1000円) 数値の更新・修正等があっても反映していない。

■有価証券割賦販売業(内地)(昭和8-12年): 大日本帝国統計年鑑 56 (昭和10年)

大蔵省銀行局, 【対象期間】昭和8年-昭和12年 【注】(金額単位1000円) 値の更新・修正等があっても反映していない。

1. JDCatの特徴とデータ活用（まとめ）

■JDCatの特徴

- ✓社会科学・人文学に特化したメタデータ
- ✓統制語彙による横断検索
- ✓英語による検索・結果表示
- ✓ファセット検索

国内外の専門家のニーズに応える検索
初学者にもわかりやすく効率的な検索

■データ活用の展望：新たな「知」の創造

- ✓分野や国境を超えたデータの共有
- ✓個人研究や共同研究、教育、政策立案など、多様なデータ活用を推進

2. デモ

The screenshot displays the JDCat (Japan Data Catalog for the Humanities and Social Sciences) website. At the top right, there is a language setting dropdown menu currently set to '日本語'. The header features the JDCat logo and the title '人文学・社会科学総合データカタログ'. Below the header, a paragraph explains the catalog's purpose: it is a metadata catalog for humanities and social sciences data, managed by the National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST) on behalf of the Japanese Society for the Study of the Humanities and Social Sciences (JSHSS). It allows for one-stop searching of metadata across various data sets.

Navigation links include 'トップ' (Home), 'お知らせ (更新情報等)' (News), 'JDCat利用マニュアル' (User Manual), and '拠点機関のリンク' (Links to Partner Institutions).

The main content area is divided into two primary sections: 'キーワード検索欄' (Keyword Search) and 'ファセット検索欄' (Facet Search). The keyword search section includes a text input field with a placeholder '入力後、Enterキーを押下し検索してください' (After input, press the Enter key to search), a '検索' (Search) button, and a '詳細検索' (Advanced Search) button. Below the input field, there are radio buttons for '全文' (Full Text) and 'キーワード' (Keyword).

The facet search section, located on the left, contains several expandable categories: 'アクセス権' (Access Rights), 'データの言語' (Data Language), '配布者' (Distributor), '対象地域' (Target Area), and 'トピック' (Topic). Each category has a right-pointing arrow to indicate it can be expanded.

The search results section, titled '検索結果', shows '1 - 20 of 2277 results'. It includes a '表示順' (Sort by) dropdown menu with 'Title' and 'desc' options. The results list includes entries such as '高等師範学校及臨時職員養成所 (内地) (大正14年度-昭和9年度): 大日本帝国統計年鑑 56 (昭和12年) 表228' and '高等師範学校及臨時教員養成所 (内地) (昭和2-11年度): 大日本帝国統計年鑑 58 (昭和14年) 表240'. Each entry provides a brief description of the data and its source.



<https://jdcat.jsps.go.jp/>

2. デモ：①簡易検索

阿部 正弘

▼ 詳細検索

☒ 全文 ☐ キーワード

検索結果

1 - 20 of 98 results.

表示順: Title ▼ asc ▼

📄 (阿部正弘書状)・(守玄院一ニツキ上申書)・嘉祥二付登城之書付・刑部卿殿逝去ニ付御機嫌伺十五日より廿日迄之日記手留一件

阿部, 正弘
東京大学史料編纂所
包紙有。5-87-1～6一括43998

📄 (阿部正弘書状)・(守玄院一ニツキ上申書)・嘉祥二付登城之書付・刑部卿殿逝去ニ付御機嫌伺十五日より廿日迄之日記手留一件

阿部, 正弘
東京大学史料編纂所
自筆。佐々木顕癸・金田小十郎宛。守玄院一件につき。5-87-1～6一括天保12年?月21日

📄 (阿部正弘書状)・(守玄院一ニツキ上申書)・嘉祥二付登城之書付・刑部卿殿逝去ニ付御機嫌伺十五日より廿日迄之日記手留一件

阿部, 正弘
東京大学史料編纂所
87-1の別紙。5-87-1～6一括天保12年力

2. デモ：①簡易検索（詳細結果表示）

アイテム

（阿部正弘書状）・（守玄院一ニツキ上申書）・嘉祥二付登城之書付・
刑部卿殿逝去二付御機嫌伺十五日より廿日迄之日記手留一件

<https://jdcatalog.jp/records/8885>

Item type	Multiple(1)
公開日	2021-11-10
タイトル	（阿部正弘書状）・（守玄院一ニツキ上申書）・嘉祥二付登城之書付・ 刑部卿殿逝去二付御機嫌伺十五日より廿日迄之日記手留一件 (abemasahirosoyojo)・(shugeninichinitsukijoshinsho)・ kashonitsukitojonokakitsuke・ gyobukyodonoseikyonyonitsukigokigenukagaijugonichiyorihatsukamaden nikkitedomeikken
作成者	阿部, 正弘
Distributor	
寄与者	東京大学史料編纂所 Historiographical Institute, the University of Tokyo

9

views

total

[See details](#)

Versions

Ver.1

2021-11-09 13:39:25.683848

[Show All versions](#)

2. デモ：②詳細検索

金融

金融

全文 キーワード

検索

閉じる

← 切り替え

	タイトル	値を入力	
AND	作成者	値を入力	×
AND	配布者	値を入力	×
AND	トピック	値を入力	×
AND	概要	値を入力	×
AND	対象地域	値を入力	×
AND	研究助成機関	値を入力	×
AND	研究費番号	値を入力	×
AND	関連情報	値を入力	×
AND	関連文献	値を入力	×
AND	編集者	値を入力	×
AND	所蔵者・寄託者	値を入力	×
AND	対象時期	yyyymmdd To yyyymmdd	×

2. デモ：②詳細検索

対象時期を範囲指定して絞り込む

金融

☒ 全文 ☐ キーワード

AND

タイトル ▼ 値を入力

対象時期 ▼ 1990 To 1995

1990 1995

yyyymmdd (年月日)
mm、ddは省略可能

検索結果

1 - 12 of 12 results.

表示順: Title ▼ asc ▼

生活保障と生命保険に関する個人調査, 1991

生命保険文化センター、実地調査は中央調査社
SSJ データアーカイブ

バブル経済からリアル経済(実体経済)への移行、金融自由化、価値観や生活意識の多様化、ライフスタイルの個別化、高齢化社会の成熟などの社会経済環境のなかで、生命保険商品に対するニーズも、生活全般を捉えた総合的な生活保障機能・サービスを備えたものなど、広汎多岐にわたり高まってきている。そこで、生命保険に関わる人々の意識や実態を時系列で追うことにより、その変化を把握することを目的として、1987年より「生活保障と生命保険に関する個人調査」(全国、18～69歳の男女個人、6,000サンプル)と題したアンケート調査を行っており、本調査はその5回目にあたる。本調査の内容は、①生活保障(医療、老後、死亡)に対する意識、及び生命保険をはじめとした保障準備についての利用状況、②民保セールスマンとの接触状況や店頭訪問経験等の人々と民間の生命保険会社との関わり、及び民保に期待する新規事業・サービス、等となっている。

2. デモ：③ファセット検索（1）

配布者＞「一橋大学経済研究所」「SSJデータアーカイブ」を選択

アクセス権 >

データの言語 >

配布者 ▼

一橋大学経済研究所(2319) x

SSJ データアーカイブ(164) x

対象地域 >

トピック >

検索結果 1 - 20 of 2483 results.

表示順: Title asc ▼

「女性の生活調査」女性の生活の現在と将来, 1980

生命保険文化センター、野村総合研究所
SSJ データアーカイブ
「女性を取り巻く社会環境の変化」と「生活と就労面における女性の実態と意識」についてできる限りトータルな視点から把握することを目的として、生命保険文化センターと野村総合研究所とで共同研究が行われ、この一般市民アンケートと企業人アンケートが実施された。この他に有識者アンケートやインタビュー、資料分析等がされている。一般市民調査においては、女性の生活構造、価値観、就労意識を明らかにすることを目的とし、調査項目は、生活構造、価値観、生活保障意識、就労の実態と意識、家庭外活動への参加意識、等である。企業人調査の目的は、課長クラスの企業人を観察者として企業における女性の変化を探ることであり、就労している女性の属性変化、就労形態や仕事内容の変化、女性の意識の変化等について調査している。

明治42年工場統計：調査票様式ほか調査概要

農商務省
一橋大学経済研究所
調査票を配布する形式の最初の工業統計。この時は5年に一度行うという形であった。

大正3年工場統計：調査票様式ほか調査概要

農商務省
一橋大学経済研究所
前回と同じ形式で行われた。

2. デモ：③ファセット検索（2）

トピック＞「選挙」を追加

☒ 全文 ☐ キーワード

アクセス権

データの言語

配布者

一橋大学経済研究所(2136) x

SSJ データアーカイブ(106) x

対象地域

トピック

選挙(29) x

検索結果

1 - 20 of 29 results.

表示順: Title asc

21世紀初頭の投票行動の全国的・時系列的調査研究 (JESIII SSJDA版), 2001-2005

JESIII研究会（池田謙一・小林良彰・平野浩），実地調査は（社）中央調査社、本調査は、2001年7月29日に行われた第19回参議院選挙直前から、2005年9月11日に執行された第44回衆議院選挙直後までに実施された。衆参各2回の国政選挙前後と統一地方選挙前の計9回にわたる全国的規模のパネル調査である。本研究は過去の全国調査である1967年の「ミシガン調査」、1976年のJABISS調査、1983年のJES調査、1993-96年のJESII調査を継承し、さらに新しい研究課題を発展・充実させたものである。本研究は、21世紀初頭の日本の政治変動を投票行動の分析を中心としてとらえることをめざしている。投票行動は政治参加・社会参加のもっとも基本的な手段であり、世論の動態のダイナミクスをとらえる主要な一指標である。本プロジェクト「JESIII(Japanese Election Study III)」は、この指標を中心に、日本人の政治行動・政治意識に関わるデータを2001-2005年(平成13-17年)の間の9度にわたり、全て全国パネル調査として取得することを目標にした。2001年度、2004年度には参議院選挙の事前・事後の各2調査、2003年度および2005年度には解散を受けた衆議院選挙の事前・事後の各2調査を実施し、さらに2002年度に関しては、統一地方選挙の事前調査を実施した。こうして2001年小泉政権誕生時から2005年の同一政権による2度目の衆議院選挙までの4度の国政選挙全てを通じて、政権の変容と、それが有権者の投票行動に及ぼす効果を緻密にとらえるという目的を達成している。当該データは同一人物に対する継続パネル調査であるために、衆院に関しては新制度のもとでの有権者の適応行動が追跡可能となり、またそれに対応した政党の行動を研究する上でも基本データを提供するものとなっている。さらに、国政レベルと地方選挙レベルでの有権者の行動の対応を検討するという目的も果たした。これと同時に、政治行動・政治意識に関連した新しい研究テーマに関わる複数のデータを取得するのみならず、2004年度には参院選事後調査において国際比較政治体制プロジェクト(CSES2-Comparative Study of Electoral Systemsの第2プロジェクト)のデータ取得の責をも果たした。このプロジェクトは世界規模の比較調査で、マクロ=ミクロの政治システム相互連関を政治行動において体系的に検討することを可能にしている。CSES2部分のデータは既に他の世界32の国政選挙データとともに公開されている。さらに全データの日英両語における公開を進めることで、実証的な政治行動・政治意識研究においてJESIIIプロジェクトが今後とも果たす意義は大きい。本研究は、政治学者と社会心理学者の密接な協調のもとに研究が進められ、主たる分析目的は以下の6点である。(a) 選挙制度変革の影響の因果的解析。(b) 合理的選択の投票参加・投票行動における発現の検討。(c) 政府・与党の将来期待・業績評価の投票行動への効果を計量的に解析。(d) 政党認知変化のダイナミックな社会心理学モデルの検討。(e) 複雑化したメディア環境下での投票行動の効果分析。(f) ボランティア組織、社会的コミュニケーションの日本の特性を政治参加において分析。なお、第1回・第2回調査(2001年度)では、JESIIサンプルとの継続性に配慮して、JESIIIのパネルサンプルのほかに、JESIIパネル調査全回継続参加者348人に対しても同一項目・同一日程で郵送調査(第1回)(有効回収数312)、電話調査(第2回)(有効回収数194)を行っている。また、JESIIIデータの信頼性を検証する事後検証調査を郵送調査によって2005年後半に実施し、データの信頼性を確認している。

2. デモ：③ファセット検索（2）

アイテム

21世紀初頭の投票行動の全国的・時系列的調査研究（JESIII SSJDA版）， 2001-2005

<https://jdcats.jssps.go.jp/records/6034>

Item type	Harvesting DDI(1)
公開日	2021-11-16
タイトル	
タイトル	21世紀初頭の投票行動の全国的・時系列的調査研究（JESIII SSJDA版）， 2001-2005 Nation-wide Longitudinal Survey Study on Voting Behavior in the Early 21st Century, 2001-2005
作成者	JESIII研究会（池田謙一・小林良彰・平野浩）， 実地調査は(社)中央調査社
配布者	SSJ データアーカイブ
配布者URI	https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/ssjda/

101

views

total ▼

[See details](#)

Versions

Ver.1

2021-06-29 15:02:22.381871

[Show All versions](#)

東京大学：社研

2. デモ：③ファセット検索（3）

トピックを検索して探す

例：労働→「労働条件」「労働と雇用」…

トピック

労働

労働条件(173)

労働と雇用(77)

労働力(65)

労働と雇用政策(22)

労働組合・争議(19)



労働異動(15)

労働衛生(11)

労働・賃金(6)

労働時間(4)

2. デモ：③ファセット検索（3）

トピックを検索して探す

例：「労働と雇用政策」を選択

アクセス権 >

データの言語 >

配布者 >

対象地域 >

トピック 
労働と雇用政策(24) x 

検索結果

1 - 20 of 24 results.

表示順: Title desc

東日本大震災に関する特別調査

慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター
慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター
東日本大震災が日本全国の家計に与えた影響を明らかにするため、JHPS/KHPSの調査協力者を対象に実施した特別調査です。2011年6月・10月の計2回の調査からなります。

東日本大震災に関する特別調査

慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター
慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター
東日本大震災が日本全国の家計に与えた影響を明らかにするため、JHPS/KHPSの調査協力者を対象に実施した特別調査です。2011年6月・10月の計2回の調査からなります。

日本版 General Social Survey (JGSS) 2016：地点情報データ

岩井, 八郎, 岩井, 紀子, 穴戸, 邦章, 佐々木, 尚之
JGSS研究センター
本データは、オンサイトでの利用に限定されている「日本版 General Social Survey (JGSS) 2016」の地点情報データです。利用申請の際には「日本版 General Social Survey (JGSS) 2016」の利用申請を同時に行ってください。なお、このデータの利用を希望される方はオンサイト利用を申請してください。詳細については「地点データのオンサイト利用」 (https://jgss.daishodai.ac.jp/data/dat_onsite.html) をご確認ください。

2. デモ：③ファセット検索（3）

アイテム

日本版 General Social Survey (JGSS) 2016：地点情報データ

<https://jdcats.jssps.go.jp/records/8383>

Item type	Harvesting DDI(1)
公開日	2021-10-05
タイトル	
タイトル	Japanese General Social Survey (JGSS) 2016: Geographic Identification Code 日本版 General Social Survey (JGSS) 2016：地点情報データ
その他のタイトル	JGSS-2016 Geographic Identification Code JGSS-2016 地点情報データ
作成者	岩井, 八郎 岩井, 紀子 穴戸, 邦章 佐々木, 尚之
配布者	JGSS Research Center
配布者URI	https://jgss.daishodai.ac.jp/

7

views

total ▼

[See details](#)

Versions

Ver.1

2021-09-21 00:39:04.165749

[Show All versions](#)

エクスポート

2. デモ：④英語検索（簡易検索）

☒ Full text ☐ Keyword

Search Results 1 - 20 of 125 results.

Display Order:

2013 Survey on Lifestyle

Aoyagi, Midori, The fieldwork was conducted by Survey Research center Co., LTD.
JGSS Research Center
Survey on Lifestyle 2013 targets 3,000 individuals aged 20 to 80. The objectives were 1) to understand the degree to which Japanese people are aware of and the way they handle the risks associated with climate change and radioactive contamination caused by the Great East Japan Earthquake; as well as 2) to produce information for future environmental policy development. This survey was supported by the Ministry of Environment (The Environment Research and Technology Development Fund Z E-1202).

2014 Survey on Lifestyle

Aoyagi, Midori, The fieldwork was conducted by Shin Joho Center, Inc.
JGSS Research Center
Survey on Lifestyle 2014 targets 3,000 individuals who were age over 20 years old. The objectives were 1) to understand the risks associated with climate change and radioactive contamination caused by the Great East Japan Earthquake, including Japanese values, risk awareness and patterns of energy choice; as well as 2) to produce information for future environmental policy development. This survey was supported by the Ministry of Environment (The Environment Research and Technology Development Fund 1-1406).

2. デモ：④英語検索（ファセット検索）

Access >

Data Language >

Distributor ▼

Select... ▼

JGSS Research Center(48)

Panel Data Research Center at Keio University(47)

Institute of Economic Research, Hitotsubashi University(21)

SSJDA(9)

media

Search

Advanced

☒ Full text ☐ Keyword

media

2013 Survey on Lifestyle

Aoyagi, Midori, The fieldwork was conducted by Survey Research center Co., LTD.
JGSS Research Center
Survey on Lifestyle 2013 targets 3,000 individuals aged 20 to 80. The objectives were 1) to understand the degree they handle the risks associated with climate change and radioactive contamination caused by the Great East Japan Earthquake for future environmental policy development. This survey was supported by the Ministry of Environment (The Environment Fund 1-1202).

2014 Survey on Lifestyle

Aoyagi, Midori, The fieldwork was conducted by Shin Joho Center, Inc.
JGSS Research Center
Survey on Lifestyle 2014 targets 3,000 individuals who were age over 20 years old. The objectives were 1) to understand radioactive contamination caused by the Great East Japan Earthquake, including Japanese values, risk awareness and information for future environmental policy development. This survey was supported by the Ministry of Environment (Environment Fund 1-1406).

2015 Survey on Lifestyle

2. デモ：④英語検索（詳細結果表示）

Item

Japanese Panel Survey of Consumers: 2017

<https://jdcats.jpsps.go.jp/records/6419>

Item type	Harvesting DDI(1)
PubDate	2021-06-24
Title	
Title	消費生活に関するパネル調査 (JPSC) 2017 Japanese Panel Survey of Consumers: 2017
Alternative Title	JPSC JPSC
Author	Institute for Research on Household ECONOMICS
Distributor Name	慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター Panel Data Research Center at Keio University
Publisher	慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター Panel Data Research Center at Keio University

64

views

total ▼

[See details](#)

Versions

Ver.1 2021-06-29 16:09:09.096708

[Show All versions](#)

2. デモ：⑤データへのアクセス

帝国 位置

☒ 全文 ☐ キーワード

検索結果1 - 5 of 5 results.

表示順:

📄 帝国ノ位置 (昭和15年) : 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) 表1

海軍省水路部, 【対象期間】[昭和15年]【注】(1) 樺太の国境は西端東経142度9分25秒、東端143度59分40秒なり。【計数出所】海軍水路部調査【利用上の注意】統計年鑑は刊行当時の数値を掲載し、その後、原資料で数値の更新・修正等があっても反映していない。

📄 帝国ノ位置 (昭和14年) : 大日本帝国統計年鑑 58 (昭和14年) 表1

海軍省水路部, 【対象期間】[昭和14年]【注】樺太ノ国境ハ西端東経142度9分20秒東端ハ東経143度59分25秒ナリ。【計数出所】海軍水路部調査【利用上の注意】統計年鑑は刊行当時の数値を掲載し、その後、原資料で数値の更新・修正等があっても反映していない。

📄 帝国ノ位置 (昭和13年) : 大日本帝国統計年鑑 57 (昭和13年) 表1

海軍省水路部, 【対象期間】[昭和13年]【注】【計数出所】海軍水路部調査【利用上の注意】統計年鑑は刊行当時の数値を掲載し、その後、原資料で数値の更新・修正等があっても反映していない。

📄 帝国ノ位置 (昭和12年) : 大日本帝国統計年鑑 56 (昭和12年) 表1

海軍省水路部, 【対象期間】[昭和12年]【注】【計数出所】海軍水路部調査【利用上の注意】統計年鑑は刊行当時の数値を掲載し、その後、原資料で数値の更新・修正等があっても反映していない。

2. デモ：⑤データへのアクセス

帝国ノ位置 ([昭和15年]) : 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) 表1

<https://jdcatalog.jp/records/6523>

Item type	Harvesting DDI(1)
公開日	2021-07-28
タイトル	
タイトル	帝国ノ位置 ([昭和15年]) : 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) 表1
言語	ja
作成者	海軍省水路部
配布者	一橋大学経済研究所
言語	ja
配布者URI	https://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/
編集者	内閣統計局
言語	ja
URI	https://doi.org/10.50914/0002000589
URI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/records/2000589
URI	https://doi.org/10.50914/0002000589
URI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/records/2000589
データファイルURI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/record/2000589/files/1940_2_01_001.pdf
データファイルURI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/record/2000589/files/1940_7_01_001_20200925.xlsx

3

views

total

[See details](#)

Versions

Ver.1	2021-06-29 20:08:16.579690
-------	----------------------------

[Show All versions](#)

Export

OAI-PMH

☒ OAI-PMH JPCOAR ☒ OAI-PMH DublinCore

☒ OAI-PMH DDI

Other Formats

[JSON](#)

2. デモ：⑤データへのアクセス

一橋大学経済研究所データリポジトリ

Data Repository of the Institute of Economic Research, Hitotsubashi University

日本統計年鑑 / 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) / 1 土地

帝国ノ位置 ([昭和15年]) : 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) 表1

<https://doi.org/10.50914/0002000589>

☐	名前 / ファイル	ライセンス	アクション
☐	 Original Image		 Download  Information
☐	 Translation		 Download  Information
☐	 Numbered Image		 Download  Information

Item type	JSYT(1)
公開日	2021-06-18
タイトル	
タイトル	帝国ノ位置 ([昭和15年]) : 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) 表1
言語	ja

35

 views

total 

[See details](#)

Versions

Ver.1 2021-06-18 14:16:31.644715

[Show All versions](#)

<https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/records/2000589>

2. デモ：⑤データへのアクセス

[illegible]

	D	E	F	G
1	No.	Japanese	Hiragana	English
2	1	土地	とち	Land
3	2	帝国の位置	ていこくのいち	Geographic Coordinates of the Empire of Japan
4	3	水路部調査	すいろぶちようさ	Survey of Hydrographic Division
5	4	地方	ちほう	District
6	5	方位	ほうい	Geographic extent
7	6	極点	きょくてん	Extreme points
8	7	地名	ちめい	Name of place
9	8	北緯	ほくい	North latitude
10	9	東経	とうけい	East longitude
11	10	帝国	ていこく	Empire of Japan
12	11	極東	きょくとう	Easternmost point
13	12	極西	きょくせい	Westernmost point
14	13	本州	ほんしゅう	Honshu
15	14	四国	しこく	Shikoku
16	15	九州	きゅうしゅう	Kyushu
17	16	琉球	りゅうきゅう	Ryukyu
18	17	北海道本島	ほっかいどうほんとう	Hokkaido
19	18	千島	ちしま	Kurile Islands
20	19	朝鮮	ちようせん	Korea
21	20	台湾本島	たいわんほんとう	Taiwan
22	21	澎湖島	ほうこう (ボンフー)	Pescadores
23	22	新南群島	しんなんぐんとう (なんきしやうとう)	Spratly Islands
24	23	樺太	からふと	Sakhalin
25	24	関東本島	かんとしゅう	Kwantung Province
26	25	南洋群島	なんようぐんとう	South Pacific Mandate
27	26	樺室支庁占守郡占守島東端	ねむろしちやうしむしゅぐんしむしゅと	Tozaki, Shumshu Island, Shumshu County, Nemuro Subprefecture
28	27	高雄州高雄市西島島西端	たかおしゅうたかおしにしとりしませい	Western tip, Spratly Island, Kaohsiung City, Kaohsiung Prefecture
29	28	東京府小笠原島南島島東端	とうきやうふおがさわらとうみなみとり	Eastern tip, Minamitorishima Island, Ogasawara Islands, Tokyo
30	29	山口県豊浦郡豊西村豊井島西端	やまぐちけんしやうらぐんとよにしそん	Western tip, Futai Island, Toyonishi Village, Toyoura County, Yamaguchi
31	30	徳島県那賀郡椿村伊島東端	とくしまけんなかつんばきそんいしま	Eastern tip, Ishima Island, Tsubaki Village, Nagano County, Tokushima
32	31	愛媛県西平郡三崎村佐田岬西方高さ30米島西端	えひめけんにしやうわぐんみさきそんさいだ	Western tip of the island, height of 30 meters in the western part, Sanjima Island, Sadaoka Village, Sada District, Ehime
33	32	大分県南海部郡東中津村水の子島東端	おおいだけんみなみあまべぐんひがし	Eastern tip, Mizunokojima Island, Higashi-Nakaura Village, Nanakura District, Oita
34	33	長崎県南松浦郡六浜村島南岩西方高さ19米岩西端	ながさきけんみなみまつうらぐんろくに	Rock of 19 meters height in the west, Minamiwara, Torishima Island, Roppe Village, Minamikuji District, Nagasaki
35	34	沖縄県島尻郡大東島北大東島東端	おきなわけんしまじりぐんだいとうしま	Eastern tip, Kitadaito Island, Daito Islands, Shimajiri County, Okinawa
36	35	沖縄県八重山郡与那国村与那国島西端	おきなわけんやえやまぐんやなぐにそん	Western tip, Yonaguni Island, Yonaguni Village, Yaeyama County, Okinawa
37	36	樺室支庁花咲郡歯舞村納沙布岬	ねむろしちやうはなさきぐんはまひら	Cape Nosappu, Habomai Village, Hanasaki County, Nemuro Subprefecture
38	37	渡島支庁松前郡大島村大島西端	おしましちやうまつまえぐんおしま	Western tip, Oshima Island, Oshima Village, Matsumae County, Hokkaido
39	38	樺室支庁占守郡占守島東端	ねむろしちやうしむしゅぐんしむしゅと	Tozaki, Shumshu Island, Shumshu County, Nemuro Subprefecture
40	39	樺室支庁国後郡村国後島ハツチヤウス鼻	ねむろしちやうくにしりぐんともりむら	Hatchausu Bana, Kunashir Island, Tomarimura Village, Kunashir Subprefecture
41	40	慶尚北道鬱陵島竹島東端	けいしやうほくどうつりやうとたけ	Eastern tip, Takeshima Island, Ulleungdo, Gyeongsangbuk-do

2. デモ：⑤データへのアクセス

帝国ノ位置 ([昭和15年]) : 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) 表1

<https://jdcats.jp/records/6523>

Item type	Harvesting DDI(1)
公開日	2021-07-28
タイトル	
タイトル	帝国ノ位置 ([昭和15年]) : 大日本帝国統計年鑑 59 (昭和15年) 表1
言語	ja
作成者	海軍省水路部
配布者	一橋大学経済研究所
言語	ja
配布者URI	https://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/
編集者	内閣統計局
言語	ja
URI	https://doi.org/10.50914/0002000589
URI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/records/2000589
URI	https://doi.org/10.50914/0002000589
URI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/records/2000589
データファイルURI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/record/2000589/files/1940_2_01_001.pdf
データファイルURI	https://d-repo.ier.hit-u.ac.jp/record/2000589/files/1940_7_01_001_20200925.xlsx

3

views

total

[See details](#)

Versions

Ver.1	2021-06-29 20:08:16.579690
-------	----------------------------

[Show All versions](#)

Export

データを直接ダウンロード
→オンライン分析システム